

## 基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ 設置者	かっぽうがくかうじょ せきじょ								
フリガナ 大学の名称	あおきだいがく								
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地								
大学の目的	北海道医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の理念に基づき、深く専門の学術を教授・研究し、有能かつ良識ある専門職能人を養成して、社会の発展に寄与するとともに、国民の保健・医療・福祉に貢献し、あわせて国際文化の向上を図ることを目的とする。								
新設学部等の目的	臨床データサイエンス学環においては、データ分析・解析・AIなどにかかるスキルを身につけ、複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場で医療人としての視点から解決策を策定できるデータサイエンティストの養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	学部等連係課程組織 臨床データサイエンス学環	年	人	年次人	人	学士（臨床科学）	社会学・社会福祉学関係、保健衛生学関係（看護学関係、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）	令和8年4月 第1年次	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地
	連係協力学部（I） 看護福祉学部 看護学科	4	15	0	60	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	平成5年4月 第1年次	同上
	福祉マネジメント学科	4	100	0	400	学士（臨床福祉学）	社会学・社会福祉学関係	平成14年4月 第1年次	同上
	福祉マネジメント学科 から臨床データサイエンス学環の内数とする 入学定員数			3年次	5	330			
	連係協力学部（II） 心理科学部 臨床心理学科	4	75	0	300	学士（臨床心理学）	文学関係	平成14年4月 第1年次	同上
	臨床心理学科から臨床 データサイエンス学環の内数とする入学定員数				5	0			
	連係協力学部（III） リハビリテーション 科学部	4	80	0	320	学士（理学療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	平成25年4月 第1年次	同上
	作業療法学科	4	40	0	160	学士（作業療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	平成25年4月 第1年次	同上
	言語聴覚療法学科	4	60	0	240	学士（言語聴覚療法学）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	平成27年4月 第1年次	同上
教育課程	連係協力学部（IV） 医療技術学部 臨床検査学科	4	60	0	240	学士（臨床検査学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）	平成31年4月 第1年次	札幌市北区あいの里2条5丁目
	計	—	—	—	—				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		歯学部附属歯科衛生士専門学校 歯科衛生科〔定員減〕△20 (令和8年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	臨床データサイエンス 学環	134科目	16科目	7科目	157科目			124単位	

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	人		
		教授	准教授	講師	助教	計					
臨床データサイエンス学環	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
連係協力学部（I）	<4> [2] (6)	<2> [0] (2)	<2> [0] (2)	<1> [0] (1)	<9> [2] (11)	<0> [0] (0)	<123> [96] (219)	<p>(注) &lt; &gt;の中の数は学部等連係課程実施基本組織の人に従事する等の教員数。 []の中の数は学部等連係課程実施基本組織と連係協力学部等を兼ねる教員の数。</p> <p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人</p>			
連係協力学部（II）											
心理科学部 臨床心理学科											
連係協力学部（III）											
リハビリテーション科学部 理学療法学科											
リハビリテーション科学部 作業療法学科											
リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科											
連係協力学部（IV）											
医療技術学部 臨床検査学科											
新設分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<4> (4)	<2> (2)	<2> (2)	<1> (1)	<9> (9)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上のお授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)					
小計（a+b）		<4> (4)	<2> (2)	<2> (2)	<1> (1)	<9> (9)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)	<0> (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		<0> [2] (2)	<0> [0] (0)	<0> [0] (0)	<0> [2] (2)	<0> [0] (0)					
計（a～d）		<4> [2] (6)	<2> [0] (2)	<2> [0] (2)	<1> [0] (1)	<9> [2] (11)					
計		<4> [2] (6)	<2> [0] (2)	<2> [0] (2)	<1> [0] (1)	<9> [2] (11)	<0> [0] (0)	<123> [96] (219)			
薬学部 薬学科	18 (18)	14 (14)	10 (10)	6 (6)	48 (48)	1 (1)	12 (12)	<p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 24人</p> <p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 64人</p>			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	14 (14)	10 (10)	6 (6)	48 (48)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上のお授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a+b）		18 (18)	14 (14)	10 (10)	6 (6)	48 (48)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		18 (18)	14 (14)	10 (10)	6 (6)	48 (48)					
計		18 (18)	14 (14)	10 (10)	6 (6)	48 (48)	1 (1)	12 (12)			
歯学部 歯学科	26 (26)	11 (11)	18 (18)	34 (34)	89 (89)	20 (20)	9 (9)	<p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 64人</p> <p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人</p>			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	26 (26)	11 (11)	18 (18)	34 (34)	89 (89)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上のお授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a+b）		26 (26)	11 (11)	18 (18)	34 (34)	89 (89)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		26 (26)	11 (11)	18 (18)	34 (34)	89 (89)					
計		26 (26)	11 (11)	18 (18)	34 (34)	89 (89)	20 (20)	9 (9)			
看護福祉学部 看護学科	9 [0] (9)	10 [0] (10)	7 [0] (7)	13 [0] (13)	39 [0] (39)	0 [0] (0)	106 [32] (106)	<p>大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人</p>			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 [0] (9)	10 [0] (10)	7 [0] (7)	13 [0] (13)	39 [0] (39)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上のお授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a+b）		9 [0] (9)	10 [0] (10)	7 [0] (7)	13 [0] (13)	39 [0] (39)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		9 [0] (9)	10 [0] (10)	7 [0] (7)	13 [0] (13)	39 [0] (39)					

院 設 分	福祉マネジメント学科	7 [1] (7)	2 [0] (2)	4 [0] (4)	3 [0] (3)	16 [1] (16)	0 [0] (0)	147 [12] (147)	大学設置基準別表 第一回に定める基 幹教員数の四分の 三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 [0] (6)	2 [0] (2)	4 [0] (4)	3 [0] (3)	15 [0] (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	小計（a～b）	6 [0] (6)	2 [0] (2)	4 [0] (4)	3 [0] (3)	15 [0] (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 [1] (1)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	1 [1] (1)			
	計（a～d）	7 [1] (7)	2 [0] (2)	4 [0] (4)	3 [0] (3)	16 [1] (16)			
	計	16 [1] (16)	12 [0] (12)	11 [0] (11)	16 [0] (16)	55 [1] (55)	0 [0] (0)	253 [44] (253)	
	心理科学部 臨床心理学科	4 [1] (4)	5 [0] (5)	3 [0] (3)	2 [0] (2)	14 [1] (14)	0 [0] (0)	92 [13] (92)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 [0] (3)	5 [0] (5)	3 [0] (3)	2 [0] (2)	13 [0] (13)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	小計（a～b）	3 [0] (3)	5 [0] (5)	3 [0] (3)	2 [0] (2)	13 [0] (13)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 [1] (1)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	1 [1] (1)			
	計（a～d）	4 [1] (4)	5 [0] (5)	3 [0] (3)	2 [0] (2)	14 [1] (14)			
	計	4 [1] (4)	5 [0] (5)	3 [0] (3)	2 [0] (2)	14 [1] (14)	0 [0] (0)	92 [13] (92)	
	リハビリテーション科学部 理学療法学 科	6 [0] (6)	3 [0] (3)	6 [0] (6)	5 [0] (5)	20 [0] (20)	0 [0] (0)	117 [11] (117)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 [0] (6)	3 [0] (3)	6 [0] (6)	5 [0] (5)	20 [0] (20)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	小計（a～b）	6 [0] (6)	3 [0] (3)	6 [0] (6)	5 [0] (5)	20 [0] (20)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	計（a～d）	6 [0] (6)	3 [0] (3)	6 [0] (6)	5 [0] (5)	20 [0] (20)			
	作業療法学 科	4 [0] (4)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	2 [0] (2)	12 [0] (12)	0 [0] (0)	133 [9] (133)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 [0] (4)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	2 [0] (2)	12 [0] (12)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	小計（a～b）	4 [0] (4)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	2 [0] (2)	12 [0] (12)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
	計（a～d）	4 [0] (4)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	2 [0] (2)	12 [0] (12)			

言語聴覚療法学科		6 [0] (6)	5 [0] (5)	6 [0] (6)	1 [0] (1)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	108 [9] (108)	大学設置基準別表 第一回に定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 [0] (6)	5 [0] (5)	6 [0] (6)	1 [0] (1)	18 [0] (18)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
小計（a～b）		6 [0] (6)	5 [0] (5)	6 [0] (6)	1 [0] (1)	18 [0] (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
計（a～d）		6 [0] (6)	5 [0] (5)	6 [0] (6)	1 [0] (1)	18 [0] (18)			
計		16 [0] (16)	9 [0] (9)	17 [0] (17)	8 [0] (8)	50 [0] (50)	2 [0] (2)	358 [29] (358)	
医療技術学部 臨床検査学科		8 [0] (8)	1 [0] (1)	8 [0] (8)	0 [0] (0)	17 [0] (17)	0 [0] (0)	100 [10] (100)	大学設置基準別表 第一回に定める基 幹教員数の四分の 三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		8 [0] (8)	1 [0] (1)	8 [0] (8)	0 [0] (0)	17 [0] (17)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
小計（a～b）		8 [0] (8)	1 [0] (1)	8 [0] (8)	0 [0] (0)	17 [0] (17)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者は又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	0 [0] (0)			
計（a～d）		8 [0] (8)	1 [0] (1)	8 [0] (8)	0 [0] (0)	17 [0] (17)			
計		8 [0] (8)	1 [0] (1)	8 [0] (8)	0 [0] (0)	17 [0] (17)	0 [0] (0)	100 [10] (100)	
合 計		94 [94)	54 [54)	69 [69)	67 [67)	284 [284)	23 [23)	1043 [1043)	
職 種		専 属		その他				計	
事務職員		61人 (61)		58人 (58)				119人 (119)	
技術職員		5 (5)		7 (7)				12 (12)	
図書館職員		1 (1)		12 (12)				13 (13)	
その他の職員		57 (57)		67 (67)				124 (124)	
指導補助者		0 (0)		0 (0)				0 (0)	
計		124 (124)		144 (144)				268 (268)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用				計	
	校舎敷地	98,662.63m <sup>2</sup>	1,650.00m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>				100,312.63m <sup>2</sup>	
	そ の 他	57,315.74m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>				57,315.74m <sup>2</sup>	
	合 計	155,978.37m <sup>2</sup>	1,650.00m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>				157,628.37m <sup>2</sup>	
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用				計	
		71,300.60m <sup>2</sup> (71,300.60m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )				71,300.60m <sup>2</sup> (71,300.60m <sup>2</sup> )	
教 室・教 員 研 究 室		教 室	44室	教 員 研 究 室		9室	大学全体		
図 書・設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	機械・器具 点	標本	学部等単位での特 定不能なため、大 学全体の数	
	臨床データサイエンス学環	236,000〔76,200〕 (236,030〔76,237〕)	1,130〔95〕 (1,126〔95〕)	10,900〔8,300〕 (10,905〔8,303〕)	8,890〔7,255〕 (8,886〔7,253〕)	77,511 (77,511)	2,185 (2,185)	北海道医療大学学 部附属衛生士専門学校共用 収容定員：150人 基準面積なし	
	計	236,000〔76,200〕 (236,030〔76,237〕)	1,130〔95〕 (1,126〔95〕)	10,900〔8,300〕 (10,905〔8,303〕)	8,890〔7,255〕 (8,886〔7,253〕)	77,511 (77,511)	2,185 (2,185)		
	スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設				4,166.85m <sup>2</sup>	大学全体
		1,746.49m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	4,166.85m <sup>2</sup>					
経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当たり研究費等		294千円	294千円	294千円	294千円	一千円	一千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	一千円	一千円	
	図書購入費	0千円	108千円	108千円	108千円	108千円	一千円	一千円	図書費に は電子 ジャーナル・ データベース の整備費 (運用コスト 含)を含む
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	一千円	一千円	
	学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,200千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	一千円	一千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金・寄付金・資産運用・雑収入等						



附属施設の概要	<p>名称 総合図書館及び総合図書館分館        目的 教育及び研究に必要な図書館資料を収集・管理し、本学職員並びに学生の利用に供すると共に、必要なすべての情報を提供するためのサービスシステムを確立することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地及び北海道札幌市北区あいの里2条5丁目        設置年月 昭和61年12月        規模等 土地：1,249.00m<sup>2</sup> 建物：4,866.96m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 薬学部附属薬用植物園        目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 昭和60年9月        規模等 総面積：2,900.00m<sup>2</sup> (内、温室341.46m<sup>2</sup>)</p>
	<p>名称 北方系生態観察園        目的 日本薬局方に収載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成13年6月        規模等 総面積：153,060.00m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 北方系伝統薬物研究センター        目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成21年8月        規模等 土地：342.00m<sup>2</sup> 建物：552.60m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 アイソトープ研究センター        目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 昭和57年3月        規模等 土地：1,650.00m<sup>2</sup> 建物：1,239.09m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 動物実験センター        目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 昭和63年12月        規模等 土地：624.00m<sup>2</sup> 建物：1,866.70m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 全学教育推進センター        目的 全学教育プログラムを開発し、その実施ならびに教育改善を行い、教育の発展に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成19年4月</p>
	<p>名称 情報センター        目的 教育・研究及び大学の管理運営の効率化を図るために構築された学内L.A.Nの管理運用を行うとともに、本学における情報化を推進し、教育・研究の発展に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成10年6月</p>
	<p>名称 保健センター        目的 学生及び職員の保健管理に関する業務を行うことを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成8年4月</p>
	<p>名称 薬剤師支援センター        目的 薬学部が有する諸機能と知的財産を広く社会に還元し、教育・研究等における医療現場との連携並びに薬剤師の生涯学習推進に寄与することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成22年10月</p>
	<p>名称 國際交流推進センター        目的 海外の教育研究機関等との学術交流、学生交流その他の国際交流事業の推進を図ることにより、本学の国際化を推進することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成25年12月</p>
	<p>名称 地域連携推進センター        目的 本学の持つ諸機能と知的財産を広く社会に還元し、社会に開かれた大学として地域社会へ貢献することとともに、本学における教育研究活動の活性化を図ることを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成26年4月</p>
	<p>名称 茨戸教育研修センター        目的 学生、職員の教育・研修に資するとともに、福利厚生に寄与することを目的とする        所在地 北海道石狩市生振1246番地        設置年月 平成6年6月        規模等 土地：1,155.00m<sup>2</sup> 建物：418.33m<sup>2</sup></p>
	<p>名称 アドミッションセンター        目的 入学者選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成29年4月</p>
	<p>名称 IR推進センター        目的 本学における教育、研究その他の諸活動に関する情報の効果的かつ効率的な収集、分析等を行うことにより、本学の戦略的大学運営の推進に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 平成30年4月</p>
	<p>名称 外国人留学生サポートセンター        目的 本学の教育理念、教育目標及び北海道医療大学国際化に関する基本方針に基づき、外国人留学生に対する修学、生活に係る支援及び指導助言を通じて自立性の向上を図るとともに、円滑な修学を実現する教育環境の整備に資することを目的とする        所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地        設置年月 令和6年4月</p>

教育課程等の概要															
(臨床データサイエンス学環)															
科目区分	授業科目的名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態		基幹教員等の配置						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		
全 学 教 育 科 目	文章指導(文章指導)	1前	○	2	2	○				1	1	1		6	共同・unei
	人間と思想(科学技術社会と倫理)	1前			2	○								1	
	人間と思想(生命倫理学入門)	1後			2	○								1	
	英語II(英語A)	1前			1	○								1	
	英語II(英語B)	1後			1	○								3	unei
	運動科学(運動科学論)	1前			2	○								3	unei・共同(一部)
	運動科学演習(運動科学演習)	1後			1		○							3	共同・unei
	情報科学(情報科学)	1後		○	2		○			1	1	1		1	共同・unei
	情報処理演習(情報処理演習I)	1前		○	1		○							1	共同・unei
	情報処理演習(情報処理演習II)	1前		○	1		○							1	共同・unei
	統計学(基礎統計学)	1前		○	2		○							1	unei
	生物学(基礎生物学)	1前		○	2		○							1	
	生物学(基礎生理学)	1前		○	2		○							1	
	法学(法学概論)	1前			2	○								1	
	法学(日本国憲法)	1後			2	○								1	
	人類学(文化人類学)	1後			2	○								1	
	人類学(医療人類学)	2前			2	○								1	
	多職種連携(多職種連携入門)	1前		○	2		○							34	unei・共同(一部)
	多職種連携(多職種連携演習)	3前		○	1			○						20	unei・共同(一部)※講義
	多職種連携(全学連携地域包括ケア実践演習)	4前		○	2			○						22	unei・共同
	地域連携(地域ボランティア論)	1前		○	2		○							1	
	医療倫理(医療倫理学)	2前		○	2		○							1	
	小計(22科目)	—		—	19	19	0	—	—	3	1	1	1	75	
医 療 系 基 礎 教 育 科 目	人の体を学ぶ(臨床解剖疾病学I)	1後	○	2			○							1	
	人の体を学ぶ(臨床解剖疾病学II)	1後		○	2		○							1	
	人の体を学ぶ(臨床解剖疾病学III)	2前		○	2		○							1	
	人の体を学ぶ(臨床解剖疾病学IV)	2前		○	2		○							1	
	人の体を学ぶ(臨床解剖疾病学V)	2後		○	2		○							1	
	心理学概論	1前		○	2		○							1	
	臨床心理学概論	1後		○	2		○							1	
	健康・医療心理学I	2後		○	2		○							1	
	社会福祉概論	1前		○	2		○							3	unei
	リハビリテーション概論	1前		○	1		○							6	unei・※演習
	障がい者当事者論	2前		○	1			○						5	unei・共同(一部)
	臨床検査学	1前		○	1		○							6	unei・unei
	医用工学概論	2前		○	1		○							1	unei
	小計(13科目)	—		—	22	0	0	—	—	2	0	0	0	24	
医 疗 D X 科 目	医療情報科学	2・3前	○		1		○							1	
	歯学概論	2・3通			2		○							32	unei・共同(一部)
	組織学・発生学	2・3通			5		○							6	unei・共同(一部)※実習
	病理学・口腔病理学	2・3通			5		○							16	unei・共同(一部)※実習
	臨床口腔病理学	2・3前			2		○							12	unei・共同※実習
	臨床画像解析学	2・3前			1		○							5	unei
	歯科放射線学II	2・3通			2		○							3	共同
	調剤学	2・3後			1		○							4	unei
	医薬品情報学	2・3後			1		○							1	unei
	実務薬学	2・3前			2		○							3	unei
	薬剤疫学	2・3後			1		○							1	unei
	地域医療学	2・3前			2		○							4	unei・共同(一部)
	薬用植物学	2・3後			1		○							1	
	生薬学	2・3前			2		○							2	unei
	漢方薬学概論	2・3前			1		○							1	
	社会薬科学	2・3後			1		○							7	unei・共同(一部)
	医療推計学	2・3前			1		○							2	unei
	ヘルスエコノミクス	2・3前			1		○							3	unei
	レギュラトリーサイエンス	2・3前			1		○							1	
	臨床検査管理学I	2・3前			2		○							5	unei・共同(一部)
	臨床検査管理学II	2・3前			2		○							3	unei・共同(一部)
	小計(21科目)	—		—	0	37	0	—	—	1	0	0	0	86	

保健科 D X 科 目	食品衛生学	2・3前		1	○								2	omnibus・共同 (一部)
	健康食品学	2・3後		1	○								5	omnibus
	環境衛生学	2・3後		2	○								1	
	毒性影響と評価	2・3前		1	○								3	omnibus
	公衆衛生学 I	2・3前		1	○								1	
	公衆衛生学 II	2・3後		1	○								1	
	医療概論	2・3前		1	○								5	omnibus
	臨床心理学	2・3後		2	○								2	omnibus
	ヘルスプロモーション論	2・3後		1	○								2	omnibus・共同 (一部)
	社会保障論	2・3通		4	○								1	
	公的扶助論	2・3前		2	○								1	
	公衆衛生学 (薬学部)	2・3前		2	○								1	
	公衆衛生学 (歯学部)	2・3後		2	○								5	omnibus・共同 (一部) ※実習
	公衆衛生学 (心理科学部)	2・3後		2	○								1	共同
	公衆衛生学 (リハビリテーション科学部)	2・3後		1	○								1	
小計 (15科目)		—	—	0	24	0	—	0	0	0	1		27	
医療看護系 看護専門 D X 科 目	看護学原論	2・3前		2	○								1	
	地域在宅看護学	2・3前		2	○								2	omnibus・共同 (一部)
	成人看護学	2・3後		2	○								2	omnibus
	老年看護学	2・3前		2	○								5	omnibus
	小児看護学	2・3後		2	○								3	omnibus・共同 (一部)
	母性看護学	2・3前		2	○								2	omnibus
	精神看護学	2・3後		2	○								5	omnibus
	保健医療福祉制度と看護	2・3後		1	○								5	omnibus
	看護技術論	2・3後		2	○								1	
	看護技術各論 I	2・3前		1	○								3	omnibus
	看護技術各論 II	2・3後		1	○								2	omnibus
	在宅看護学各論	2・3後		1	○								6	omnibus
	キャリア開発論 I	2・3後		1	○								1	
	看護倫理	2・3前		2	○								5	omnibus・共同 (一部)
	がん看護学	2・3前		2	○								2	omnibus
	セルフマネジメント支援論	2・3後		1	○								1	omnibus
	クリティカルケア論	2・3前		1	○								1	
	セーフティマネジメント論	2・3後		2	○								3	omnibus・共同 (一部)
	看護管理論	2・3前		2	○								1	
小計 (19科目)		—	—	0	31	0	—	1	1	0	0		33	
福祉科 D X 科 目	地域共生社会演習 I	2・3通		2	○								3	共同
	アダプティッド・スポーツ演習	2・3前		1	○								1	
	理学療法概論	2・3前		1	○								2	omnibus
	音楽療法	2・3前		1	○								3	omnibus
	レクリエーションスポーツマネジメント	2・3前		2	○								1	
	障害者福祉論	2・3後		2	○								1	
	ソーシャルワーク論 I	2・3前		2	○								2	omnibus
	ソーシャルワーク論 II	2・3後		2	○								4	omnibus・共同
	福祉と当事者のリアル I	2・3前		1	○								1	
	児童福祉論	2・3後		2	○								2	omnibus・共同 (一部)
	スクールソーシャルワーク論	2・3前		2	○								2	omnibus
	発達心理学 II	2・3後		2	○								2	omnibus
	認知症ケア論	2・3前		2	○								1	
	家族療法	2・3前		2	○								1	
	マーケティング論	2・3前		2	○								3	omnibus・共同
	マネジメント論	2・3後		2	○								1	
	権利擁護・成年後見制度論	2・3前		2	○								1	
	リハビリテーション論	2・3前		2	○								3	omnibus
	高齢者福祉論	2・3前		2	○								4	omnibus・共同 (一部)
認知症と生活支援		2・3後		2	○								1	
小計 (20科目)		—	—	0	36	0	—	1	0	1	0		28	

心理 理 D X 科 目	学習・言語心理学 I	2・3後		2	○								1			
	学習・言語心理学 II	2・3後		2	○								1			
	知覚・認知心理学	2・3前		2	○								1			
	感情・人格心理学 I	2・3後		2	○								1			
	感情・人格心理学 II	2・3前		2	○								1			
	教育・学校心理学 I	2・3後		2	○								1			
	教育・学校心理学 II	2・3後		2	○								1			
	司法・犯罪心理学	2・3後		2	○								1			
	心理学研究法	2・3前		2	○								1			
	心理学統計法 I	2・3後		2	○								1			
	心理学統計法 II	2・3前		2	○								1			
	心理情報処理	2・3前		2	○								1			
	社会・集団・家族心理学 I	2・3後		2	○								1			
	産業・組織心理学	2・3後		2	○								1			
	労働安全衛生論	2・3後		2	○								1			
	行動経済学	2・3後		2	○								1			
	障害者・障害児心理学	2・3前		2	○								1			
	福祉心理学	2・3後		2	○								1			
	健康・医療心理学 II	2・3前		2	○								1			
	心理学の支援法 I	2・3前		2	○								1			
	心理学の支援法 II	2・3後		2	○								1			
	発達心理学 I	2・3前		2	○								1			
	小児科学	2・3前		2	○								1			
	精神疾患とその治療	2・3前		2	○								1			
小計 (24科目)		—	—	0	48	0	—	1	0	0	0		15			
基 幹 教 育 科 目	数理・アルゴリズム	1前	○	2		○		1		1			オムニバス			
	プログラミング演習	1前	○	2		○		1	1	1			共同			
	データサイエンス実習	1前	○	2		○		2	2	1			オムニバス・共同			
	ニューラルネットワーク基礎	1後	○	2		○		1	1	1			オムニバス			
	ニューラルネットワーク演習	1後	○	2		○		1	1	1			共同			
	ニューラルネットワークプロジェクト実習	1後	○	2		○		1	1	1			共同			
	医療データサイエンス入門 I	2前	○	2		○		1	1	1			共同			
	疊み込みニューラルネットワーク基礎	2前	○	2		○		1	1	1			オムニバス			
	画像認識演習	2前	○	2		○			1	1			共同			
	画像認識プロジェクト実習	2前	○	2		○			1	1			共同			
	医療データサイエンス入門 II	2前	○	2		○			1	1			共同			
	データ・テキスト生成AI	2後	○	2		○		1	1	1			共同			
	クラウド生成AI演習	2後	○	2		○		1	1	1			共同			
	生成AI活用プロジェクト実習	2後	○	2		○		1	1	1			共同			
	ロボットプログラミング実習	2後	○	2		○			1				共同			
	AIプロジェクト基礎	3前	○	2		○		1	1	1			オムニバス・共同			
	医療AIプロジェクト演習	3前	○	2		○			1	1			共同			
	データサイエンス・AIプロジェクト実習	3通	○	2		○			1	1			オムニバス・共同			
	マルチモーダル生成AI	3後	○	2		○		1					共同			
	ローカル生成AI構築演習	3後	○	2		○			1	1			オムニバス・共同 (一部)			
	データ駆動型プロジェクト実習 (インターンシップ)	3通	○	2		○		3	2	1			共同			
	卒業研究 I	3後	○	2		○		6	2	2	1		共同			
	卒業研究 II	4通	○	6		○		6	2	2	1		共同			
小計 (23科目)		—	—	50	0	0	—	6	2	2	1		0			
合計 (157科目)		—	—	91	195	0	—	6	2	2	1		219			
学位又は称号	学士 (臨床科学)			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係、保健衛生学関係 (看護学関係)、保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)、保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
全学教育科目27単位以上 (うち必修19単位、選択8単位)、医療系基礎教育科目22単位 (うち必修22単位)、医療系専門教育科目25単位以上 (うち選択25単位)、基幹教育科目50単位 (うち必修50単位)を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 55単位 (年間))							1学年の学期区分	2期								
							1学期の授業期間	15週								
							1时限の授業の標準時間	80分								

授業科目の概要				
(臨床データサイエンス学環)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	文章指導（文章指導）	○	<p>専門教育に向けての基礎学力を向上させるためにも、研究や調査、学修の成果をまとめ、レポートや論文を作成する能力を修得することは重要となる。本講義ではそのための基本的な力、具体的には、論理的な文章を的確に読解する力（読解力）、相手の考えを的確にまとめる力（要約力）、自分の考えを適切に表現して、わかりやすく伝える力（論理的思考力、文章構成力、論述力）などを身につけることを目標とする。また、クラウドなどのI C Tを活用しながら、グループワークやピアレビューを実施し、多面的な視点にたつたディスカッションができるようとする。なお、「文章指導」は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された教育プログラムを構成する授業科目である。</p> <p>(2 二瓶裕之・13 足利俊彦・14 鈴木一郎・6 新岡丈治・78 近藤(木村)朋子・79 木村治・109 中山章・80 井上貴翔・8 西牧可織／全15回) (共同)</p>	共同
	人間と思想（科学技術社会と倫理）		科学技術社会論の概要を講義形式だけではなく、映像資料等を参照しながら、ワークショップ、グループワーク、発表等を実施し能動的に学ぶ。日常生活において身近な科学技術と社会の関係、科学技術への市民参加（リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方）、科学技術コミュニケーション（科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェ）、科学の不確定性（科学の完全無欠という誤解、科学と社会の利害関係・価値観との絡み合い）などの概要を学際的な観点から幅広く取り扱う。	
	人間と思想（生命倫理学入門）		生命倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料などを参照しながら、グループワーク、発表などを実施し能動的に学ぶ。医療現場で問題となっている事例（患者・医療者関係、安楽死と治療停止など）だけではなく、脳科学や生命科学などの現在進行形の研究から起因する倫理的・社会的問題や、社会における医療の役割などを学際的な観点から幅広く取り扱う。	
	英語II（英語A）		入学前までに培ってきた英語の読解力・聴解力を伸長させながら、専門分野で使用される英語を理解するための基礎力を養成する。	
	英語II（英語B）		親しみやすい教材から日常よく使われる英語表現を学び、自ら英語で発信する能力を身につける。基礎的な文法事項を整理してリーディング・ライティング技能の定着を図るとともに、随時リスニングやスピーキングの練習を行っていく予定である。	
	健康・運動科学（運動科学論）		<p>身体活動、運動、生活活動についての理解を深めるため、身体活動の重要性、運動時のからだの変化、運動トレーニングによるからだの適応についての基礎的知識を身につける。また、健康・体力づくりおよび運動傷害などに関する科学的根拠に基づいた基礎的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(15 山口明彦／6回) ガイダンス、身体活動の重要性①②、運動と筋肉①②、運動と体型①②            (111 井上恒志郎／5回) 運動と呼吸循環①②、トレーニング論①②、まとめ            (110 福家健宗／4回) 運動と健康①②、スポーツ傷害①②</p>	オムニバス方式

健康・運動科学演習（運動科学演習）		<p>健康・体力づくりの理論と実践について、演習、実技形式で学習する授業である。健康・体力、生活習慣病と運動、各個人の能力に基づいた運動トレーニング法について自ら実践することによって、安全で効果的に運動を実施できる能力を身につける。また、各種スポーツの実践を通して、特性、技術を理解するとともに安全に、楽しく、効果的に生涯にわたってスポーツを実践するための基礎能力を養うとともに、チームワーク、社会性、コミュニケーション能力を身につける。さらに、自己の生活習慣を評価し改善策を立案するとともに、身体のケアとしてテーピングの技術を学ぶ。</p> <p>オムニバス方式／全15回）（一部共同）</p> <p>（15 山口明彦・111 井上恒志郎・110 福家健宗／2回）ガイダンス、スポーツ「ミニバレー」</p> <p>（15 山口明彦／7回）●屋外スポーツ「テニス」、●オリエンテリングディスク」、●バドミントン、●バドミントン</p> <p>（111 井上恒志郎／8回）●屋外スポーツ「フライングディスク」、●卓球、●テーピングの基礎、●テーピングの応用、●卓球</p> <p>（110 福家健宗／8回）●屋内スポーツ「球技」、●身体活動・栄養・生活、●球技、●リズム体操、「ミニバレー」、まとめ</p> <p>（15 山口明彦・111 井上恒志郎／2回）演習「筋力テスト」「トレーニング」</p>	オムニバス方式・共同（一部）
情報科学（情報科学）	○	<p>本科目では、将来、医療・福祉専門職として従事する医療の現場において「数理・データサイエンス・AI」を使いこなせる知識やスキルを学ぶ。授業では、まず、医療の現場などで取得されたデータを活用するうえでの個人情報の扱いと、時系列分析や回帰分析に関する分析ツールの利用方法を学ぶ。また、アルゴリズムやプログラミングの基礎を学ぶことで、分析ツールをブラックボックス化せずに、その動作原理や仕組みを理解し、医療の現場で目的に沿って正しく使えるようにする。そのうえで、画像診断などでも活用されている教師あり学習（機械学習）と、診療記録の音声入力などでも活用されている自然言語処理などの「数理・データサイエンス・AI」に関する技術を学ぶ。なお、「情報科学」は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された教育プログラムのなかのオプション項目を学ぶ授業科目である。</p> <p>（2 二瓶裕之・8 西牧可織／全15回）（共同）</p>	共同
情報処理演習（情報処理演習Ⅰ）	○	<p>本科目では医療・福祉分野における研究および専門職に必要となる情報通信技術（ICT）や数理・データサイエンス・AIを活用する知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切な判断と解決のできる学術的・実践的能力を身につけることを目指す。特に、数理・データサイエンス・AIが示唆する分析結果が何を意味するのかを考えながら、それを主体的に使いこなせるようになることを目指す。また、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上も目的として、協働で課題を解決することを体験しながら、自らの専門領域を発展させる能力を身に着けられるようにする。授業の序盤では、課題を解決するための枠組みとして、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的リテラシーを身に付けるため、文書作成技法、プレゼンテーション技法、データ分析・予測法などの活用術を関連科目（※）の学修テーマも踏まえながら学ぶ。授業の中盤以降では、クラウド技術やデータサイエンスの知識を活用して、他の学問分野との連携を踏まえながら問題発見・課題解決型の協働学修を行う。なお、「情報処理演習」は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された教育プログラムを構成する授業科目である。</p> <p>（2 二瓶裕之・8 西牧可織／全15回）（共同）</p>	共同
情報処理演習（情報処理演習Ⅱ）	○	<p>本科目では医療・福祉分野における研究および専門職に必要となる情報通信技術（ICT）や数理・データサイエンス・AIを活用する知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切な判断と解決のできる学術的・実践的能力を身につけることを目指す。特に、数理・データサイエンス・AIが示唆する分析の過程および結果が何を意味するのかを統計的知識を活用（※）して考えながら、それを主体的に使いこなせるようになることを目指す。また、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上も目的として、協働で課題を解決することを体験しながら、自らの専門領域を発展させる能力を身に着けられるようにする。数理・データサイエンス・AIに関する基礎的リテラシーを身に付けるため、文書作成技法、プレゼンテーション技法、データ分析などの活用術を基礎統計学（※）で扱う学修テーマを通じた演習形式で学ぶ。また、クラウド技術やデータサイエンスの知識を活用して、他の学問分野との連携を踏まえながら問題発見・課題解決型の協働学修を行う。なお、「情報処理演習Ⅱ」は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された教育プログラムを構成する授業科目である。</p> <p>（8 西牧可織・10 米田龍大／全15回）（共同）</p>	共同

全 学 教 育 科 目	統計学（基礎統計学）	○	基礎統計学の知識は、Evidence Based Practice (EBP) の基本である。本科目では、医療・福祉の現場における臨床例や、調査・研究などで得られたデータを適切に扱い、処理するために必要な統計学の基礎的な考え方および統計的手法を学ぶ。	
	生物学（基礎生物学）	○	医療・福祉分野の専門職に就くにあたって、ヒトのつくりや正常な機能を学び、加齢や疾患、障がいによってそこにどのような機能低下や損失が認められるかを理解し、その状態や治療過程をサポートするための知識や技能を修得する必要がある。そのための基盤作りとして、生物としての「ヒト」の基礎的な知識を身につける必要がある。全ての生物には、「細胞をもつ」、「刺激に応答する」、「恒常性を維持する」など、いくつかの共通した特徴がある。基礎生物学では、ヒトにおけるこれらの特徴について、高校生物（生物基礎・生物）で学修する内容から専門教育科目の生物系科目につなげるための基礎知識を修得する。	
	生物学（基礎生理学）	○	生理学とは、生命の機能やメカニズムを理解する学問です。薬剤師を目指す上で、体内での薬剤の作用や相互作用を深く理解するためには、生理学の知識が不可欠です。本講義では、生命の様々なシステムとその働きの基礎を学びます。さらに、これらの知識を基に、1年次の後期以降のより専門的な講義への橋渡しを行います。この講義を通じて、将来の薬学研究や臨床応用へと展開するための基礎知識を習得することが目的です。	
	法学（法学概論）		最近では、テレビや新聞などで、法に関する話題がよく取り上げられている。しかし、法や法律と聞くと難しくなじみにくいイメージを持つてしまいがちである。例えば、医療従事者の職務は医療・薬事関連法規によって規定されているが、医療をとりまく環境が刻々と変化しつづけるなかで、それに関連する法的問題に対しても、社会の関心は日々高まっている。人はこの世に生まれてから死ぬまで法や法律と何らかの形で密接に関わっている。『法』とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、我々にとって実は身近な『法』と「生命」「医療」との関係について改めて考えてみる、これが本講義のコンセプトである。初めて法学を学ぶ受講生には法律に対する興味や関心をもってもらうため、身近な出来事・ふとした疑問を出発点として、生命・医療に関わる身近なテーマを取り上げる。「法学」を学んでその諸原則を理解するとともに、医療に従事する専門職として法的思考（論理的思考）を身に付ける。	
	法学（日本国憲法）		国の基本法であり、最高法規である日本国憲法は私たちの生活と密接な関係を持っている。第9条と自衛隊の問題、生活保護の問題、などの最近話題になることの多い問題だけではなく、自己決定権にせよ、表現の自由にせよ、憲法に関連する事柄は、毎日のように新聞やテレビなどで報道されている。憲法によって我々は社会的に様々な形で国家から守られているが、このことを理解することは我々国民にとって当然の義務である。すでに中学・高校で「日本国憲法」を学習しているため、「日本国憲法」については簡単なイメージをもっていると思うが、大学で学ぶ「憲法」は社会科の延長ではない。憲法の条文などを『覚える』のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「解決するためにどう対処すべきなのか?」を『考える』ことが重要になる。例えば、日本国憲法第9条は「戦争放棄」を規定しているが、第9条で放棄している「戦争」はどのような「戦争」なのか?あらゆる「戦争」を放棄しているのか?だとすれば、我が国が軍事的に侵略を受けた場合はどうするのか?といった憲法が抱えている重要な問題について考えていく。本講義では、憲法の特色を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解するために、教員と受講生の対話（「問い合わせ」と「答え」）を交えながら、授業を展開する。	
	人類学（文化人類学）		「人間と動物」の関係について、地球誕生から現代までの人類史と世界の多様な文化の事例をとり上げて検討することで、野生を支配しようとしてきた近代以降の「人間中心主義」を見つめ直し、社会的、文化的存在として生きる人間についての理解を深める。	
	人類学（医療人類学）		食べないことで自らの身体を虐待する拒食症、心の性と身体の性が一致しない性同一性障害、これら「食」と「性」という人間の二つの基本的営みに関わる問題についてとりあげ、わたしたちの身体と社会や文化との関係について医療人類学的な視点から考察する。	

多職種連携（多職種連携入門）	○	<p>現代社会における保健・医療・福祉では、個体差に基づいた個々人に最も適したケア、および個人の人格を尊重し、個々人を最も幸福にするケアが求められている。また、高度に専門化し複雑化した保健・医療・福祉システムや、少子高齢化時代を迎えるにあたり、専門職業人が協働する「多職種連携」が必要とされている。この講義では、医療系総合大学として本学が掲げる「新医療人」に求められる個人差に応じた健康科学および多職種連携の理念と方法、その具体的実践について理解するため、全学部学科の学生が共に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(83 町田拓自・79 木村治・3 笠師久美子・84 中川勉・155 山本隆弘・17 越野寿・18 荒川俊哉・19 飯田貴俊・85 豊下祥史・156 高田紗理・86 熊谷歌織・113 中安隆志・157 三津橋梨絵・154 片山寛信・112 近藤尚也・16 花渕馨也・81 磯部太一・114 関口真有・87 本谷亮・115 西郷達雄・159 金山裕望・158 上河邊力・15 山口明彦・21 武田涼子・160 多田菊代・116 浅野葉子・22 坂上哲可・117 小林健史・161 遠村礼央奈・118 近藤啓・23 遠藤輝夫・152 沖野久美子／2回) (共同) ガイダンス：授業の進め方&amp;多職種連携の基礎</p> <p>(188 安喰(早川)智美・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) 多職種連携のベース・連携に役に立つこころのスキル</p> <p>(180 大原裕介・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) 地域医療・福祉の連携</p> <p>(17 越野寿・18 荒川俊哉・19 飯田貴俊・85 豊下祥史・156 高田紗理・114 関口真有・87 本谷亮・115 西郷達雄・159 金山裕望・158 上河邊力・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) グループワーク演習①：歯学部&amp;心理科学部</p> <p>(86 熊谷歌織・113 中安隆志・157 三津橋梨絵・15 山口明彦・21 武田涼子・160 多田菊代・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) グループワーク演習②：看護学科&amp;理学療法学科</p> <p>(154 片山寛信・112 近藤尚也・117 小林健史・161 遠村礼央奈・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) グループワーク演習③：福祉マネジメント学科&amp;言語聴覚療法学科</p> <p>(83 町田拓自・79 木村治・3 笠師久美子・84 中川勉・155 山本隆弘・116 浅野葉子・22 坂上哲可・118 近藤啓・23 遠藤輝夫・152 沖野久美子・16 花渕馨也・81 磯部太一／2回) (共同) グループワーク演習④：薬学部&amp;作業療法学科&amp;医療技術学部 (20 山田律子／1回) 専門分野と多職種連携：まとめ講義</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
多職種連携（多職種連携演習）	○	<p>医療・福祉領域では、患者・利用者や家族等との多職種による有機的な連携と協業は欠かせない時代となっている。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際について、ソーシャルワーク、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の専門的な立場から考察し、他の専門職の専門性を相互理解するとともに多職種チームで果たす役割や機能について学ぶ。また、多職種連携演習では、模擬事例をもとに、学部学科をこえたカンファレンス(グループワーク)で、各自がファシリテーション力、コミュニケーション力、コンフリクトマネジメント力を發揮し、ふりかえる(リフレクション)ことで、多職種連携に必要となる知識・技術・態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(26 本家寿洋・88 卷康弘・24 橋本菊次郎・112 近藤尚也・162 鈴木和・89 宮地普子・25 常田美和・90 内ヶ島伸也・119 山田拓・163 用田歩・27 田村至・21 武田涼子・107 澤田篤史・164 佐藤一成・5 鎌田樹寛・22 坂上哲可・122 前田秀彦・91 大須田祐亮・120 飯泉智子・121 若松千裕・165 斎藤隆司／10回) (共同) オリエンテーション、多職種連携演習I、II、III、IV</p> <p>(26 本家寿洋／1回) 多職種連携の必要性</p> <p>(89 宮地普子／1回) 多職種連携に関わる各職種の役割</p> <p>(88 卷康弘／1回) 多職種連携に必要な技術1</p> <p>(21 武田涼子／1回) 多職種連携に必要な技術2</p> <p>(27 田村至／1回) 多職種連携に必要な技術3</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

多職種連携（全学連携地域包括ケア実践演習）	○	<p>多職種連携は、保健・医療・福祉の現場において、対象者・家族のQOL (Quality of Life: 生命・生活・人生の質) の向上のために対象者・家族と多職種がケアや社会的課題の解決を通じて協働することである。現代の複雑で多様化した保健・医療・福祉の課題を持つ社会において、一人の専門職がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決するということは困難である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門職が協働することが必要とされる。本講義では、多職種連携の実際の場面から、対象者・家族の全体像について話し合い理解することを通して、保健・医療・福祉の分野における多職種連携のあり方を学ぶ。具体的には、①地域包括ケアにおける専門職の活動を、多職種連携による対象者理解の観点に注目しながら同行訪問・オンラインで見学する。②対象者理解を進めるために、専門職、対象者・家族に対してインタビューする。③多職種が連携して対象者の全体像をとらえる。④得られた情報をもとに自分の専門とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する考え方をまとめる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (共同)</p> <p>(123 早坂敬明・155 山本隆弘・28 浜上尚也・79 木村治・92 岩尾一生・19 飯田貴俊・17 越野寿・29 永易裕樹・166 菅悠希・124 原田文也・93 川添恵理子・30 竹生礼子・88 巻康弘・162 鈴木和・114 関口真有・159 金山裕望・107 澤田篤史・26 本家寿洋・125 萩西聰子・126 小野誠二・184 岡橋智恵・185 秋元奈美／15回) オリエンテーション・講義、グループワーク・カンファレンス1、同行訪問・見学、グループワーク・カンファレンス2、発表会・グループワーク・カンファレンス3</p>	オムニバス方式・共同
地域連携（地域ボランティア論）		この授業は、ボランティアの理論と実践活動を通して、地域連携の理念を理解するとともに、自己理解を深め、地域に貢献する意志を有した人材の育成に寄与することを目的として、講義及びボランティア実践を行うものである。	
医療倫理（医療倫理学）	○	医療における倫理の重要性について学び、生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。	
人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I）	○	医療・福祉分野で活躍するためには、人体の解剖、生理、および疾患に関する基礎知識が不可欠である。「人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I～V）」では、正常な細胞・組織・臓器の形態と機能を学ぶとともに、どのような異常が生じて疾病につながるのかを、臓器ごとの関連性を踏まえながら系統的に学修する。本講義では、消化器、代謝、泌尿器、生殖器について学ぶ。	
	○	医療・福祉分野で活躍するためには、人体の解剖、生理、および疾患に関する基礎知識が不可欠である。「人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I～V）」では、正常な細胞・組織・臓器の形態と機能を学ぶとともに、どのような異常が生じて疾病につながるのかを、臓器ごとの関連性を踏まえながら系統的に学修する。本講義では、呼吸器・循環器について学ぶ。	
	○	医療・福祉分野で活躍するためには、人体の解剖、生理、および疾患に関する基礎知識が不可欠である。「人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I～V）」では、正常な細胞・組織・臓器の形態と機能を学ぶとともに、どのような異常が生じて疾病につながるのかを、臓器ごとの関連性を踏まえながら系統的に学修する。本講義では、免疫・血液・内分泌について学ぶ。	
	○	医療・福祉分野で活躍するためには、人体の解剖、生理、および疾患に関する基礎知識が不可欠である。「人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I～V）」では、正常な細胞・組織・臓器の形態と機能を学ぶとともに、どのような異常が生じて疾病につながるのかを、臓器ごとの関連性を踏まえながら系統的に学修する。本講義では、脳神経・運動器・精神について学ぶ。	

医療系基礎教育科目	人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学V）	○	医療・福祉分野で活躍するためには、人体の解剖、生理、および疾患に関する基礎知識が不可欠である。「人の体を学ぶ（臨床解剖疾病学I～V）」では、正常な細胞・組織・臓器の形態と機能を学ぶとともに、どのような異常が生じて疾病につながるのかを、臓器ごとの関連性を踏まえながら系統的に学修する。本講義では、感覚器について学ぶほか、感染症・救急医療などを切り口に臓器横断的な知識の定着を目指す。	
	心理学概論	○	心理学概論では、現代の心理学が成立するまでの歴史的経緯について理解し、心理学の基本的な考え方とその理解に必要な基礎的知識を習得する。また、心の働きによって生じている多様な現象や事象を特定し、それらを心理学的視点から理解、解釈、考察することに加え、他者に説明、解説できる能力を高める。	
	臨床心理学概論	○	臨床心理学とは、応用心理学の1つであり、心理学的な諸理論や科学的知見に基づく方法を実践し、問題行動の改善、心理社会的な不適応状態の解消、さまざまな病理的問題の解決、あるいは人格的な成長の促進を目指す学問、かつ専門的な援助体系である。本講義では、臨床心理学の入門コースとして、臨床心理学の成り立ち、および臨床心理学の代表的な理論について学習する。そして、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における主な問題に対する援助方法、および臨床の実際の概要について学び、2年次以降の発展科目や実践科目での理解が深められるような基盤となる知見を身につけることをを目指す。	
	健康・医療心理学I	○	公認心理師が担当し、活躍を期待されている5領域（「保健医療」、「福祉」、「教育」、「司法・犯罪」、「産業・労働」）の中でも、「保健医療」領域は、公認心理師養成カリキュラムの中でも、外部実習が必修とされるなど、特に重要な領域である。実際、心理職のうち、「保健医療」領域に勤務する割合は高いほか、他領域であっても、「保健医療」領域の専門家との連携は非常に多い。そして、「保健医療」領域における心理職の基盤となるものが「健康・医療心理学」の知識と技術である。「健康・医療心理学」は、特に「保健医療」機関で不可欠な疾患、アセスメント、心理的支援について網羅的に学ぶ科目である。また、単に専門的知識、技術のみではなく、心理学的支援を円滑、かつ効果的に進めるための連携についても学習する。本科目は、臨床心理学はもちろんのこと、神経・生理心理学、発達心理学、人体の構造と機能及び疾病、精神疾患とその治療、心理的アセスメントなど、さまざまな科目と関連する部分が大きい。そのため、本科目を通して、関連科目の学びが統合的に深まり、3年次以降の健康・医療心理学IIを含めた実践科目、および実習科目で求められる知見が習得できることを目指す。	
	社会福祉概論	○	社会福祉と医療の連携の必要性が強調されている昨今、社会福祉をめぐる基本的な事項について体系的に学習する。  (オムニバス方式／全15回)  (11 志水幸／4回) 暮らしと社会福祉・社会保障、社会保障・社会福祉の歴史と現代の課題、社会保障（社会保険）制度②医療保険制度・事例に学ぶ・まとめ (32 高橋亮／4回) 社会福祉のしくみと社会資源、地域福祉の推進、ライフサイクルと社会福祉・障がい者と福祉、生活と福祉・障害を持ちながら地域で生活をすること (154 片山寛信／2回) ライフサイクルと社会福祉・こども・家庭と福祉①② (24 橋本菊次郎／5回) ライフサイクルと社会福祉・高齢者と福祉、生活保護、社会保障（社会保険）制度①年金制度③介護保険制度④雇用保険制度、労災保険制度	オムニバス方式
	リハビリテーション概論	○	リハビリテーションに携わる医療専門職としての基盤を形成する導入科目として、リハビリテーションの概要を学ぶ。  (オムニバス方式／全15回)  (33 小島悟／6回) リハビリテーションとは、障害の理解①②、リハビリテーションの領域と関係職種、アプローチ方法、医療職のプロフェッショナリズム①② (5 鎌田樹寛／1回) 障害の理解③ (34 鈴木英樹／2回) リハビリテーションに関わる思想と我が国の障害者施策、リハビリテーションの実際⑦ (153 只石朋仁／1回) リハビリテーションの実際① (94 児玉壮志／1回) リハビリテーションの実際② (167 依田泰知／1回) リハビリテーションの実際③ (27 田村至／3回) リハビリテーションの実際④⑤⑥	オムニバス方式

障がい者当事者論	○	<p>身体的・精神的の障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実際を把握する。また当事者のニーズに基づいた社会制度の活用方法を探り、差別・偏見を克服するための活動を学ぶことで、人間存在の多様性とエンパワーメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (一部共同)</p> <p>(108 長谷川純子／4回) オリエンテーション、2・3回目の振り返り、5・6回目の振り返り、まとめ</p> <p>(108 長谷川純子・116 浅野葉子・117 小林健史・121 若松千裕・164 佐藤一成／4回) 当事者の話を聞く (40分×2名) 2, 3, 5, 6</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
臨床検査学	○	<p>本講義では、臨床検査技師としての現場経験のある教員を中心に、各種検査の概要と意義を学び、臨床検査の全体像を把握する。また、臨床検査の結果を正しく解釈するうえで大切な科学的な考え方とそれを他者に正しく伝えるためのレポート作成の方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(35 吉田繁／3回) 一般検査、科学的な考え方と文章の書き方1, 2 (23 遠藤輝夫／1回) 臨床化学検査、輸血・移植検査 (128 高橋祐輔／1回) 血液学、免疫学検査 (127 山崎智拡／1回) 微生物学検査 (36 丸川活司／1回) 病理組織・細胞学的検査 (126 小野誠二／1回) 神経生理学検査</p>	オムニバス方式
医用工学概論	○	<p>医療現場で使用されている医用機器の原理と、それを安全に正しく運用するために必要な医用工学の基礎知識を習得する。本講義では、臨床医学における医用工学の意義、直流・交流回路、生体計測用增幅器、フィルタ回路、発振回路、電源回路、生体計測用センサ、臨床生理用計測機器、医療機器と安全対策などについて学習する。</p>	
	医療情報科学	<p>現代の医療現場における検査オーダーや結果等の情報の受け渡しは、検査システム・電子カルテ・医療情報システムにより管理されている。また、検査室の精度管理などにはコンピュータによる情報処理が必須となっている。そのため、医療従事者にとって、コンピュータやネットワークシステムの仕組みの理解と、そのセキュリティ管理は非常に重要である。本講義では、情報理論の基礎、コンピュータの基本構造と動作原理、ハードウェア・ソフトウェア、ネットワークとセキュリティ管理について学習し、臨床の場においてどのように活用されているのかを学習する。</p>	
	歯学概論	<p>歯学概論では、専門基礎系科目および臨床系科目の教授内容に関する概説を聴講し、歯科医師について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全30回) (一部共同)</p> <p>(1 三国久美／1回) 歯学概論講演 (37 古市保志／1回) 歯学概論序論 (38 斎藤隆史／1回) う蝕をはじめとする歯の硬組織疾患とその予防・治療法を知る (39 伊藤修一／1回) 歯内療法を知る (41 長澤敏行／1回) 臨床教育 (40 細矢明宏／1回) 歯の組織 (42 永野恵司／1回) 微生物学・免疫学を学習する意義 (18 荒川俊哉／1回) 生化学・口腔生化学 (43 舞田健夫／1回) 歯科診療と審美 (44 齋田一洋／1回) デジタル技術と歯科診療 (45 根津尚史／1回) 歯科理工学 (46 志茂剛／1回) 口腔外科の役割を知る (95 川島雄介／1回) 電離放射線と画像検査を知る (29 永易裕樹／1回) 口腔外科を知る (47 入江一元／1回) 解剖学・口腔解剖学 (191 佐藤結香／1回) 開業医として社会に貢献できること (192 萩輪隆宏／1回) 歯科医師という職業を考える (48 斎藤正人・96 広瀬弥奈・131 倉重圭史／1回) 小児・障害児(者)の口腔管理 (49 安彦善裕／1回) 病理学・口腔病理学 (50 飯嶋雅弘／1回) 歯並びと健康 (51 照光真／1回) 歯科麻酔を知る (52 谷村明彦／1回) 歯科と薬 (181 越智守生／1回) インプラント (53 村田勝／1回) 再生医療 (17 越野寿／1回) 噛むことと健康 (54 會田英紀／1回) クラウンブリッジを知る (55 石井久淑／1回) 口腔・顎顔面領域の生体反応の特徴を知る (19 飯田貴俊／1回) 食べる機能の障害を知る (56 高橋伸彦／1回) 歯科における内科学の立ち位置を知る (57 三浦宏子／1回) 地域での歯科保健活動</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

組織学・発生学		<p>歯科臨床の基礎を理解するために、口腔を含む人体諸器官の組織構造を学ぶ。また、個体発生の仕組みと人体諸器官の発生に関する知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／講義：全45回、実習：全30回) (一部共同)</p> <p>(40 細矢明宏／9回) 〈組織学総論〉細胞、上皮組織・支持組織 1. 結合組織 2. 軟骨組織 3. 骨組織、筋組織、神経組織</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明／1回) 組織学総論のまとめ</p> <p>(40 細矢明宏／11回) 〈組織学各論〉脈管系、血液と骨髄、リンパ性器官、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、皮膚、感覺器系</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明／1回) 組織学各論のまとめ</p> <p>(40 細矢明宏／10回) 〈口腔組織学〉エナメル質、象牙質、歯髄、セメント質、歯根膜、歯槽骨、頸関節、口腔粘膜、唾液腺</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明／1回) 口腔組織学のまとめ</p> <p>(40 細矢明宏／8回) 〈発生学〉個体発生、口腔顔面領域の発生、歯の発生、歯の萌出と脱落、口腔顔面領域の加齢変化</p> <p>(168 高橋昌己／1回) 〈発生学〉歯の比較解剖学</p> <p>(132 建部廣明／2回) 〈発生学〉歯の形態、歯の形態異常</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明／1回) 発生学のまとめ</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明・169 岸本有里／18回) 組織学実習について、上皮組織-1、2、支持組織-1、2、神経組織、筋組織、血液・血管、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、リンパ性器官、生殖系、内分泌系、皮膚</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明・169 岸本有里・194 西一幸／4回) 歯の研磨標本、歯と歯周組織</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明・169 岸本有里・193 小林秀樹／4回) 歯の発生、唾液腺</p> <p>(40 細矢明宏・132 建部廣明・169 岸本有里／4回) 舌、頸関節、組織学実習のまとめ</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
---------	--	--	---------------------

病理学・口腔病理学	<p>口腔病理学は歯をはじめ口腔領域に発生する疾病や病的状態、その原因、発生機序、転帰などを究明することを目的とする歯科基礎医学の一分野で、臨床歯学と予防歯学と密に関連している。病理学総論を理解したうえで、口腔領域の諸疾患に対し、診断・処置・予防法を正しく、合理的に遂行するための基礎的な知識を与える。</p> <p>(オムニバス方式／講義：全51回、実習：全11回) (一部共同)</p> <p>(49 安彦善裕／2回) 病理学緒言、細胞とその基本病変、病理学総論の概略、病因論</p> <p>(133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎／2回) 歯の発育異常、う蝕（齲歯）①</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎／2回) う蝕（齲歯）②、循環障害①</p> <p>(49 安彦善裕・170 森川哲郎／2回) 循環障害②</p> <p>(49 安彦善裕・133 佐藤惇・170 森川哲郎／2回) 循環障害③、増殖性病変①</p> <p>(133 佐藤惇／2回) 増殖性病変②</p> <p>(49 安彦善裕・170 森川哲郎／8回) 退行性病変①、退行性病変②、炎症、感染症①、感染症②、免疫異常</p> <p>(133 佐藤惇・134 吉田光希／4回) 歯牙硬組織の病変、歯の沈着物、歯齦の退行性変化と化生、歯齦炎、根尖性歯周炎①、根尖性歯周炎②</p> <p>(49 安彦善裕／1回) 歯牙の再植・移植・インプラントの病理①</p> <p>(196 松坂賢一・49 安彦善裕／2回) 歯牙の再植・移植・インプラントの病理②</p> <p>(198 濱野弘規・49 安彦善裕／1回) 歯科治療と歯齦・歯周組織の変化</p> <p>(197 松原茂・49 安彦善裕／1回) 歯周疾患①</p> <p>(49 安彦善裕／1回) 歯周疾患と全身疾患</p> <p>(195 下野正基・49 安彦善裕／2回) 歯周疾患②</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希／1回) 機械的因子による歯周組織の変化</p> <p>(49 安彦善裕・170 森川哲郎／2回) 口腔領域組織の増齢的変化、抜歯創の治癒</p> <p>(134 吉田光希・170 森川哲郎／2回) 口腔領域の囊胞</p> <p>(49 安彦善裕・170 森川哲郎／2回) 口腔粘膜及び口腔軟組織の良性腫瘍、口腔領域の悪性腫瘍</p> <p>(133 佐藤惇／2回) 顎骨の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変、顎骨の病変</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎／1回) オリエンテーション、退行性病変①</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・199 清水重善／1回) 退行性病変②</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・200 青木一太／1回) 増殖性病変</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・201 神野由貴／1回) 炎症①</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・202 高橋耕一／1回) 炎症②</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・203 宇津宮雅史／1回) 炎症③</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・204 中條貴俊／1回) 炎症④</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・205 大西綾／1回) 腫瘍①</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎・206 高橋周平／1回) 腫瘍②</p> <p>(49 安彦善裕・134 吉田光希・133 佐藤惇・170 森川哲郎／2回) 腫瘍③、実習試験</p> <p>(133 佐藤惇／2回) 顎骨の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変、顎骨の病変</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
-----------	--	-----------------

医療 DX 科目	臨床口腔病理学	<p>歯科臨床で遭遇する可能性のある口腔領域の諸疾患に対し、診断・処置・予防法を正しく、合理的に遂行するための基礎的な知識を与える。</p> <p>(オムニバス方式／講義：全16回、実習：全7回) (共同)</p> <p>(49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希／2回) 口腔粘膜及び口腔軟組織の良性腫瘍、口腔領域の悪性腫瘍 (134 吉田光希・170 森川哲郎／2回) 口腔領域に症状を示す全身疾患 (133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎／10回) 歯原性腫瘍①、②、唾液腺の病変、口腔領域における発生と奇形、口腔粘膜の病変①、② (49 安彦善裕・133 佐藤惇・170 森川哲郎／2回) 口腔粘膜の病変③、口腔の病理診断 (49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎・199 清水重善・200 青木一太／1回) 口腔領域の囊胞 (49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎・201 神野由貴・202 高橋耕一／1回) 口腔粘膜の病変 (49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎・203 宇津宮雅史・204 中條貴俊／1回) 歯原性腫瘍① (49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎・205 大西綾／1回) 歯原性腫瘍② (49 安彦善裕・133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎・206 高橋周平／1回) 唾液腺病変 (133 佐藤惇・134 吉田光希・170 森川哲郎／2回) 実習試験・清掃、実習再試験</p>	オムニバス方式・共同
	臨床画像解析学	<p>臨床の様々な場面において、画像情報が果たす役割はますます増加し、その内容も極めて多様化している。また画像情報の進歩は、疾患の診断、治療、予後の判定など患者に多くの福音をもたらした。本講では、代表的な8疾患を中心とし、日常頻繁に使用されている画像検査の観点から、その臨床的意義並びに基本的な考え方などについて学ぶとともに、一連の疾患診断プロセスと病態との関係を総合的に学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(83 町田拓自／1回) 血液・造血器系関連疾患 (58 柳川芳毅／2回) 悪性腫瘍1,2 (135 鹿内浩樹／2回) 心疾患1,2 (60 大橋敦子／1回) 代謝性疾患 (59 泉剛／2回) 脳神経疾患、認知症 (58 柳川芳毅／2回) 免疫・アレルギー疾患、感染症</p>	オムニバス方式
	歯科放射線学II	<p>歯科医療を行う上で必要な電離放射線の生体への影響、防護の原理と実際、各種画像検査及び画像診断に関する基礎的及び臨床的知識を学ぶ。</p> <p>(95 川島雄介・136 中谷温紀・171 杉浦一考／全30回) (共同)</p>	共同
	調剤学	<p>近年、医療の高度化、多様化に伴い医療における薬剤師の役割が大きく変化し、薬剤師業務も多様化してきている。しかし、調剤業務（正確な調剤）が薬剤師業務の根幹であることは何ら変わらない。本講義では、処方箋に基づいた調剤業務を安全で適切に遂行出来るようになるために、基本的な薬学的管理、調剤業務の基礎を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(123 早坂敬明／1回) 薬剤師の業務と役割1, 2 (109 中山章／1回) 薬剤師の業務と役割1, 2 (137 櫻田涉／5回) 処方箋の記載事項、計数調剤（内用剤、外用剤①）、計量調剤（散剤）、計量調剤（内用液剤・外用薬②）、処方箋鑑査・調剤薬鑑査・疑義照会 (61 平野剛／1回) 注射剤調剤</p>	オムニバス方式
	医薬品情報学	<p>医薬品情報とは、医薬品が単なる物質ではなく「くすり」であるために必須な情報であり、常に更新されている。この講義では、薬剤師として医薬品の適正使用に貢献していくために、医薬品情報を正しく理解し、取り扱うことができるようになることを目的として、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的知識、技能、態度を修得する。また、医薬品情報を適切に扱うためには、薬学部において学ぶほとんどの授業内容を修得している必要のあることを体感する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(62 小林道也／7回) 医薬品情報とは、医薬品情報の情報源1、2、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理1、2、3、保険薬局と医薬品情報 (3 笠師久美子／1回) 医薬品情報を臨床に活かす</p>	オムニバス方式

	実務薬学	<p>近年、薬物治療の安全性と有効性の確保を目的として、「医薬品の適正使用」に対する認識が急速に高まっている。このような状況の中で薬剤師を取り巻く環境も大きく変化し、薬剤師がその専門性を發揮しながら医療チームの一員としての役割を担うことが社会的に求められている。またそのため取り組むべき業務も多岐にわたっている。本講義では、「注射剤調剤」、「患者への服薬指導」、「処方箋と疑義照会」、「医療の安全管理」に関する基本的事項を修得する。さらに、これらの業務を通して、これから患者指向の医療において、薬剤師がその職能を發揮し、かつ実践していくための応用的知識について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(123 早坂敬明／6回) 服薬指導、患者教育、患者・来局者応対、患者情報、注射剤調剤②</p> <p>(138 高村茂生／3回) 患者情報の把握、処方箋と疑義照会、処方監査</p> <p>(61 平野剛／6回) 注射剤調剤①、③、④、医療の安全管理①、②</p>	オムニバス方式
	薬剤疫学	<p>薬剤疫学とは、「人の集団における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問」と定義されている。薬物の効果や副作用に関する研究には、医薬品開発の際に行われる「治験」と、医薬品が市販された後に行われる「市販後調査」ならびに「臨床試験」がある。臨床試験において得られた結果は、薬物療法を行う上での根拠(エビデンス)となり、これを用いた医療(Evidence Based Medicine ; EBM)が最近注目されている。この講義では、薬剤疫学ならびにEBMの基本概念と有用性について理解し、薬剤疫学研究に関連する情報を評価する能力を修得する。また、臨床における薬剤師業務において、これらの知識や技能がどのように活用されるかについて理解する。</p>	
	地域医療学	<p>保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(109 中山章／6回) コミュニティーファーマシー①、②、セルフメディケーション①、②、③</p> <p>(207 吉田栄一／5回) 在宅医療と介護、保険薬局の基礎知識、調剤報酬と請求業務、調剤報酬と請求業務①、②</p> <p>(137 櫻田涉／3回) 災害時医療と薬剤師、合同討議</p> <p>(182 狹間研至・137 櫻田涉／1回) 在宅医療・かかりつけ薬剤師</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	薬用植物学	<p>医薬品、食品、ハーブ、香辛料などに利用される薬用植物について植物名、薬用部位、性状、含有成分、薬効、問題点などの基本的性質、適切な取扱い方などの基礎的知識について学習する。漢方薬を主とする医薬品、食品、ハーブ、香辛料などに利用される薬用植物について学ぶ。それぞれの薬用植物について植物名、薬用部位、性状、含有成分、薬効、問題点などの基本的性質を理解することを目的とする。医療品となる生薬原料の適切な取扱い方、危険な植物の誤用防止方などの基礎的知識を身につけることを目的とする。</p>	
	生薬学	<p>人類は多用な生物種が作り出す多用な分子化合物を含む生薬を見出し、医療に供してきた。この薬物知識は長い年月をかけて受け継がれ、伝承医療として形成してきた。これらの伝承医療は近代科学によって、効能、効果が確認、証明されるとともに、活性本体化合物、含有成分についての分子的理解も明らかにされつつある。本講義は生薬に含まれる化学成分の基礎的知識および医療における適正利用知識を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(63 高上馬希重／12回) 漢方薬の基礎と応用①、②、日本薬局方収載の代表的な生薬①、②、③、④、⑤、⑥、天然生物活性物質①、②、生薬・漢方薬の注意点①、②</p> <p>(139 金尚永／3回) 生薬由来の生物活性物の構造と作用①、②、生薬及び微生物由来の生物活性の構造と作用</p>	オムニバス方式
	漢方薬学概論	<p>日本の伝統医学である漢方医学について、漢方の考え方や疾患概念、代表的な漢方処方などに関する基本的事項を習得する。漢方の特徴、基本的な用語、診断と治療の考え方、おもな漢方処方にに関する知識を習得することを目的とする。また漢方薬の副作用と使用上の注意について基本的事項を修得する。</p>	

社会歯科学	<p>歯科医療・保健に関する法律、制度、倫理、需給関係、医療経済等に関する知識を修得するとともに、歯科口腔保健サービスの供給体制の概要を複合的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(57 三浦宏子／6回) 医の倫理と医療安全、社会保障、医療経済、地域での歯科口腔保健の現状分析演習  (208 水谷博幸・140 村田幸枝／5回) 歯科医療および保健に関する法規  (57 三浦宏子・211 本田和枝／1回) 地域医療提供体制  (209 丹下貴司／1回) 衛生行政と地域歯科保健活動  (210 井田有亮／1回) 保健医療分野の情報管理  (212 杉本淳／1回) 災害時の健康危機管理</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
医療推計学	<p>推計学の目的は大きな集団の性質を、そこから取り出した少数から推し量ることである。この段階で統計学の知識が必要となり、その統計学の基礎は確率論にある。世の中には偶然と思われる出来事が数多く発生する。出来事は原因があつてその結果生じるもので、いわゆる因果律が成り立っているはずである。しかし多くの原因が重なった場合、確率的にとらえることは1つの有力な方法である。この講義では確率的な見方をもとに、薬学・医学・生物分野にみられるバラツキのあるデータから法則・規則性を導き出す方法を考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(97 原田潤平／7回) ガイダンス・統計学の考え方、カブラン・マイヤー曲線・確率分布、区間推定、仮説検定、二群間の差の検定：母平均の差の検定、二群間の差の検定：等分散の検定、適合度の検定・独立性の検定  (62 小林道也／1回) 臨床試験（治験）と統計学  医療ビッグデータの活用</p>	オムニバス方式
ヘルスエコノミクス	<p>近年、我が国において高齢化社会や医療の高度化を背景に、国民医療費の増大が指摘されている。薬剤師は、適正な医薬品の使用とともに医療費の適正化に貢献することが求められている。本講義では、国民医療費、社会保障、薬剤師基準における制度等に関する知識を修得するとともに、調剤報酬の算定方法及び薬物療法の経済評価の手法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(141 久保儀忠／6回) 医薬品・医療産業市場、国民医療費の動向：薬剤費（薬剤比率）、診療報酬改定と保険薬局業務①、診療報酬改定と保険薬局業務②、薬価基準制度：薬価算定方式、費用対効果の実際：判断分析モデル  (138 高村茂生／1回) 医薬品の供給と管理  (207 吉田栄一／3回) 社会保障制度と財政、医療関連制度と医療経済、診療報酬改定と薬剤師</p>	オムニバス方式
レギュラトリーサイエンス	<p>レギュラトリーサイエンスは「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義される。本講義では、医薬品及び医療機器の安全性、有効性、品質評価をはじめ、科学的合理性と社会的正当性に関する根拠に基づいた審査指針や基準策定等に関する知識を修得する。</p>	
臨床検査管理学 I	<p>急速な検査技術の進歩や医療環境の変化にも即応できる臨床検査技師を目指すためには、医療における臨床検査の役割や検査情報の重要性、臨床検査技師の各種業務内容や検査情報の管理などを理解することが重要である。本講義では、臨床検査技師の役割・使命・意義、検査部門の組織・運営、臨床検査技師の業務、検体や検査結果の取り扱いなどについて学習する。さらに、実際の現場での業務を見学することで学習の内容をより確かなものとする。また初回の講義では、大学での効率的な学習へと発展していくために、医療系大学での学修方法についてを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(116 近藤啓／11回) ガイダンス、臨床検査技師の役割と使命、臨床検査の意義、臨床検査技師の職業倫理と守秘義務、臨床検査部門の業務①、②、臨床検査部門の各種管理、検査の受付と報告、検体の取扱いと保存、病院見学ガイダンス、病院見学②  (152 沖野久美子／1回) 臨床検査部門の業務③  (118 近藤啓・23 遠藤輝夫・129 江本美穂・128 高橋祐輔／3回) 病院見学①</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

臨床検査管理学Ⅱ		<p>検査結果あるいは分析結果の精度を保証するためには、その工程すべてを範囲とした品質保証体制の確立が必要となる。本講義では、検体検査、生体検査における精度管理、品質保証、認証制度について学び、臨床検査の品質保証を理解するとともに、急速な検査技術の進歩や医療環境の変化にも即応できる臨床検査技師としての知識を習得する。臨床検査技師を目指すにあたり、臨床検査技師の国家資格をもち様々な分野で活躍する特別講師から、そのそれぞれの分野における精度管理、品質保証についても知識を習得する。早期に臨床の現場へ赴き、その実態に触れることが意義は大きい。本講義では、臨床検査関連施設の見学をおこない、予防医学や健康診断の重要性と臨床検査との関連性を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(36 丸川活司／11回) ガイダンス、検体検査における品質保証①、②、生体検査における品質保証、衛生検査所の役割と業務、企業における臨床検査技師の役割と業務、検診センターの役割と業務、生殖補助医療胚培養士における精度管理、Clinical Research Coordinatorとして活躍する臨床検査技師、科学検査研究所の業務における精度管理、施設見学に関するガイダンス</p> <p>(36 丸川活司・130 高橋祐司・127 山崎智拡／4回) 札幌医科大学標本館見学、北海道血液センター見学</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
食品衛生学		<p>衛生環境が向上した現代においても、食品由来による健康被害は報告されており、死に至る症例も報告されている。これらに対処するために、適切な知識および予防法に関する知識が必要である。食品の適切な衛生管理法および食中毒の原因を、科学的根拠に基づき学習する。本講義では、食品衛生の定義、細菌性食中毒、毒素型食中毒、感染型細菌性食中毒、自然毒食中毒、動物・植物性毒食中毒、マイコトキシン、発がん物質、食品添加物について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(28 浜上尚也／9回) 食品の安全、食品衛生と法規、食中毒1、2、食品による感染症・寄生虫症、食品中の汚染物質、食品添加物1、2、食品衛生管理、食品用器具および容器包装、食品の安全性問題、北海道薬剤師会公衆衛生検査センターの役割と業務</p> <p>(28 浜上尚也・98 小林大祐／2回) 食品の変質、食中毒3</p> <p>(98 小林大祐／4回) 食品中の発がん物質、がんの発生について、食事摂取基準、銀杏中毒研究、保健機能食品制度、北海道立衛生研究所の役割と業務</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
健康食品学		<p>高齢化社会を迎え、健康に対する関心がこれまで以上に高まっている。食は未病、予防医学を支える一因であることから、一般的の食品のみならず、健康に寄与するといったわれる様々な食品、いわゆる「健康食品」が流通し、多くの消費者がそれを利用している。しかしながら健康食品においては、効果の有無、安全性、薬品との相互作用など明確にすべき多くの問題が残されている。したがって、これらを科学的根拠に基づき適切に助言・指導するコミュニケーターが必要である。本講義では、「健康食品管理士」として必要な食品に関する知識を習得するために、1) 食品の機能と健康食品の定義、2) 健康食品の問題点・安全性、3) 健康食品の主成分・効能、4) 医薬品・検査との相互作用、5) 臨床での栄養アセスメントについて学習する。「健康食品管理士」「食品衛生管理者・食品衛生監視員」の受験資格を得るために、本講義の受講が必要。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(35 吉田繁／3回) 健康食品学概論、ガイダンス、病態解析と栄養管理1、4</p> <p>(213 本間直幸／4回) 食品化学総論、食品化学各論、食品の表示、リスクコミュニケーション</p> <p>(214 宇野智子／4回) 食品と栄養1、2、医薬品と食品の相互作用1、2</p> <p>(130 高橋祐司／2回) 病態解析と栄養管理2、3</p> <p>(215 筒浦さとみ／2回) 食品の安全性1、2</p>	オムニバス方式
環境衛生学		<p>薬学における環境衛生学は、「環境の維持・向上により、健康な人が病気にならないようにする学問」として、予防健康科学の分野を担っている。人は生物を取り巻くすべての環境に適応しながら進化を繰り返してきた。環境によって引き起こされる疾病を防止するには、社会・集団の視点から健康と疾病を理解し、地域のなかで普及することが重要である。環境衛生化学の講義では、身近な環境問題としての水・大気の環境衛生、地球環境について考察し、健康の専門家としての薬剤師が身につけるべき環境衛生の基本的事項を修得し、疾病の第一次予防としての「健康と環境」を考察できることを目的とする。</p>	

保健DX科目	毒性影響と評価	<p>生活環境に常在する化学物質・環境因子、あるいは食品汚染や薬物乱用などにより、非意図的にヒトや生物が曝露される物質は多様である。これらの因子の生体に対する影響を科学的に理解することにより、ヒトや生物などへの健康障害や悪影響を防ぎ、健康維持・増進に寄与するための基本的事項を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(99 北浦廣剛／2回) 電離放射線、放射性核種と放射線からの防御法</p> <p>(98 小林大祐／5回) 非電離放射線、化学物質による発がん、遺伝毒性試験、発がん機構、化学物質の毒性評価と試験法、化学物質の吸収、分布、代謝、排泄、食事摂取基準</p> <p>(28 浜上尚也／3回) 化学物質の適正使用とリスクコミュニケーション、量-反応関係、閾値、無毒性量、法的規制、医薬品リスク管理：サリドマイド薬害事件の教訓とサリドマイドの再承認</p>	オムニバス方式
	公衆衛生学Ⅰ	この科目は、公衆衛生学・疫学の幅広い知識を習得する。わが国の感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、公衆衛生学的・疫学的視点から説明できることを目標とする。	
	公衆衛生学Ⅱ	わが国の高齢者保健・疾病障害統計・精神保健・食品保健・環境保健・産業保健に関し、公衆衛生学的・疫学的視点から説明できるようになることを目標とする。また保健統計に関し、計算法を含んだ知識を習得する。保健統計で使われる諸手法について、説明できること、データを使用した基本的な統計解析ができるることを目指す。	
	医療概論	<p>科学としての医学の成立過程、生命の成り立ち、病気の成り立ち、口腔の健康、内科学から見た疾病、医療倫理、生命倫理、医療過誤、医療経済、予防医学など、医療・医学のベースとなる課題を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(32 高橋亮／2回) 医療の実際Ⅰ、Gerontology</p> <p>(66 西基／2回) 医療事故、医療過誤、医療経済など</p> <p>(67 濱田淳一／2回) 遺伝子について考えるⅠ、Ⅱ</p> <p>(142 加藤幸紀／2回) 歯科学についてⅠ、Ⅱ</p> <p>(31 守田玲菜／7回) 医療現場での倫理、医療の実際Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、医療過誤</p>	オムニバス方式
	臨床心理学	<p>臨床心理学とは、応用心理学の1つであり、心理学的な諸理論や科学的知見に基づく方法を実践し、問題行動の改善、心理社会的な不適応状態の解消、さまざまな病理的問題の解決、あるいは人格的な成長の促進を目指す学問、かつ専門的な援助体系である。この講義では看護師・保健師が直面する具体的な問題への臨床心理学的な対応や考え方を通して、臨床心理学とは何かについて勉強し、看護について考える視点を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(87 本谷亮／8回) 臨床心理学概論、心理療法概論1、2、心理検査・アセスメント、ストレス、うつ病、自殺予防、自殺などへの緊急介入、PTSD</p> <p>(114 関口真有／7回) 対人スキル・アサーティブネス、パーソナリティ（性格）、パーソナリティ障害、神経発達症、不安症、強迫症、保健行動</p>	オムニバス方式
	ヘルスプロモーション論	<p>人々の健康を支えるためのヘルスプロモーションの基本的な考え方を理解し、看護職の果たす役割について学ぶ。個人・家族・集団・組織を含む地域社会および地域で暮らす人々が自発的に健康的な生活を送ることができるような方法と看護職による支援を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(143 明野聖子／9回) ヘルスプロモーションの考え方1、2、健康行動に必要な理論、生活習慣におけるヘルスプロモーション3、ライフステージにおけるヘルスプロモーション1、2、地域におけるヘルスプロモーション1、2、まとめ</p> <p>(172 傑山知里／3回) 生活習慣におけるヘルスプロモーション1、2、ライフステージにおけるヘルスプロモーション3</p> <p>(143 明野聖子・172 傑山知里／3回) 生活習慣におけるヘルスプロモーション4、5、6</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	社会保障論	現代社会における社会保障にかかる諸制度や体系、財政の仕組み等を理解し、諸外国の社会保障制度の理解のもとでわが国の社会保障の課題や今後の在り方について考える。	
	公的扶助論	社会に内在する貧困・低所得をめぐる諸状況を構造的に捉えることができるよう、視覚教材・事例等を用いて現代社会の多面的・複合的課題の理解を行う。さらに、それらへの政策対応や実践のあり方について考える。	

	公衆衛生学（薬学部）	<p>薬学における公衆衛生学は、「健康な人を対象に健康な人が病気にならないようにする学問」として、薬を必要としない健康体を維持するための予防健康科学の分野を担っている。人の健康の維持・増進のために、病気を予防し、環境によって引き起こされる疾病を防止するには、社会・集団の視点から健康と疾病を理解し、地域の中で普及することが重要である。公衆衛生学の講義では、公衆の健康的な生活を確保し、人々の健康状態に応じた予防や健康増進のために寄与する薬剤師活動を行うために必要な知識を社会・集団の立場から考察できることを目的とする。</p>	
	公衆衛生学（歯学部）	<p>人々の「健康づくり」に貢献することを目標として、健康と社会・環境に関する基本的知識を修得するとともに、社会生活にとって必要な不可欠である健康の維持と増進、疾病的予防、健康管理、環境保健、健康教育、衛生行政、医療制度などの公衆衛生に関する知識を体系的に学習し、総合的に考察できるように理解を深める。歯科医師として必須の要件である公衆衛生活動を地域で実施することができる知識とスキルを得ることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全30回) (一部共同)</p> <p>(57 三浦宏子／9回) 序論、健康の保持増進、国際保健、食生活と健康、地域保健、健康づくり対策、成人・高齢者保健、障害者保健福祉      (101 松岡紘史／7回) 医の倫理、疫学、環境と健康、精神保健      (140 村田幸枝／6回) 疾病予防と健康管理1、食品衛生、母子保健、学校保健、産業保健      (208 水谷博幸／1回) 疾病予防と健康管理2 (災害保健)      (144 植原治／2回) 疾病予防と健康管理3、人口問題      (57 三浦宏子・101 松岡紘史・144 植原治・140 村田幸枝・208 水谷博幸／5回) 基礎実習：生活環境要因の測定および評価、中間試験解説、問題解決型授業 (PBL)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	公衆衛生学（心理科学部）	<p>公衆衛生の原義は「すべての人の生命と生活を守る」ことである。この科目では、「生活の中で健康をどう考えたらよいのか」について広範囲に探求する。なお、「テーマ、授業内容および学修課題」に付記されている(2-1)等は、数理・データサイエンス・AI (応用基礎レベル) モデルカリキュラムの学修項目の番号である。また、学修内容にはモデルカリキュラムにより指定された構造的なスキルセットを記載している。</p> <p>(10 米田龍大・218 志渡晃一／全15回) (共同)</p>	共同
	公衆衛生学（リハビリテーション科学部）	<p>公衆衛生学は健康に基礎をおいた保健科学の一領域であり、将来理学療法士として医療の分野で指導的立場になろうとする者が身につけるべき素養であり、必須の学科目である。この知識および技術の基礎を理解、習得し、あわせて人類の健康と福祉の向上に寄与する指導者としての責任感と社会性を身につけることが目的である。</p>	
医療系専門教育科目	看護学原論	<p>看護学を学ぶとは、看護実践のあり方、すなわち「誰に」「何のため」「何を」「どのように行うか」に関する知識とスキルを修得するということである。看護学原論では、看護学の原理として、看護実践の基盤となる概念を学ぶ。基盤となる概念をどのように考えるのか、それは一人ひとりの看護の哲学を形成し、看護の方法、つまり看護実践を規定するものとなる。授業の進め方として、まず「看護とは」何かを概観し、次に「看護実践の構造」では「何のため」「何を」「どのように行うか」を考察する。そして、「看護実践と看護理論」において看護実践の知識体系となる看護理論の特徴を学ぶ。</p>	
	地域在宅看護学	<p>地域で生活する人々とその家族を理解し、健康と生活を守る支援のあり方と看護職の役割を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(30 竹生礼子／8回) 地域在宅看護の歴史、理念、社会的背景、法的基盤(1)、(2)、(5)、人々の健康と生活の理解とニーズに沿った支援(2)、(3)、(4)、地域包括ケアと看護職の役割(1)、(2)      (143 明野聖子／6回) 地域在宅看護の歴史、理念、社会的背景、法的基盤(3)、(4)、(6)、人々の健康と生活の理解とニーズに沿った支援(1)、(5)、(6)      (30 竹生礼子・143 明野聖子／1回) まとめ</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

成人看護学	<p>成人期にある人を生活者として理解し、成人とその家族の自律と意思決定を尊重する看護を展開するために必要な基盤となる知識を学際的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(69 桑原ゆみ／11回) 成人期にある人の理解①、②、成人期の健康課題と対策①、②、成人看護の基本的な視点、成人の健康状態に応じた看護①(健康の保持・増進①、②)、成人の健康状態に応じた看護③(リハビリテーション期、成人の健康状態に応じた看護⑤)終末期看護①、②、成人期にある人々とその家族への看護 (102 神田直樹／2回) 成人の健康状態に応じた看護 (2) 周術期看護①、② (7 唐津ふさ／2回) 成人の健康状態に応じた看護 (4) 慢性期看護①、②</p>	オムニバス方式
老年看護学	<p>老年期を生きることの意味と価値について考えると共に、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴をふまえた看護やエンドオブライフ・ケアについて理解を深め、高齢者と家族に対して多職種と協働しながら看護活動を展開・創発するために必要な知識とケアの視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 山田律子／5回) 老いを生きるとは、高齢者の健康アセスメント①、老年看護の展開③：食事、エンドオブライフ・ケア、介護家族と支援体制 (145 若濱奈々子／3回) 高齢者を取り巻く社会、高齢者の健康アセスメント②、③ (90 内ヶ島伸也／3回) 老年看護の展開①：身じたく、老年看護の展開④：排泄、高齢者への地域包括ケア (173 船橋久美子／3回) 高齢者を取り巻く社会、高齢者の健康アセスメント②、③ (34 鈴木英樹／1回) 老年看護の展開①</p>	オムニバス方式
小児看護学	<p>成長・発達過程にある子どもの特徴、家族および環境が子どもに与える影響を理解するとともに、子どもと家族を対象とした看護実践の基盤となる知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(70 木浪智佳子／13回) 小児看護の理念、こどもを取り巻く社会状況と看護、こどもと家族のアセスメント①、②、健康問題を持ちさまざまな状況にあるこどもと家族の看護①、②、③、④、⑤、⑥、こどもの看護の基本となる技術②、こどもの主要症状と看護①、② (146 川崎ゆかり／1回) こどもの主要症状と看護③ (146 川崎ゆかり・174 谷本真唯／1回) こどもの看護の基本となる技術①</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
母性看護学	<p>女性のライフサイクルにおける性と生殖の側面からみた健康課題に対して、多様な価値観を考慮した看護のための学術的・実践的能力について考える視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(25 常田美和／13回) オリエンテーション・母性看護の基盤となる概念、臍帯血バンク、女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化、リプロダクティブヘルス／ライフの概念、思春期女性の健康課題、成熟期女性の健康課題、更年期・老年期女性の健康課題、リプロダクティブヘルスにおける代替療法、母性看護と生命倫理、母子保健施策、母子保健統計、母子保健に関する法律、母子の国際看護・災害看護、まとめ (175 野崎由希子／2回) リプロダクティブヘルスケア 1、2</p>	オムニバス方式
精神看護学	<p>人間のこころの健康と社会、こころの発達について学び、精神障害のある人々についての理解とともに看護の基本的考え方や態度について理解を深める。また、精神障害に関する疾病観や患者観の変遷を歴史的背景から展望し、彼らを取り巻く社会の現状や課題を学び、看護の役割と機能を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(103 八木こずえ／5回) ガイダンス、精神医療の歴史と遭遇、精神障害を生きる人々の理解、精神障害と家族 (89 宮地普子／5回) 精神の機能と構造の理解、精神障害のある人への看護1：対人関係モデル、精神障害のある人への看護2：セルフケア看護モデル、精神障害のある人への看護3：精神構造モデル1、メンタルヘルス2 (113 中安隆志／3回) 精神障害のある人への看護4：精神構造モデル2、精神障害のある人の看護5：アディクション、メンタルヘルス2 (162 鈴木和／1回) 社会の中の精神障害2：現状 (219 佐々木敏明／1回) 社会の中の精神障害1：制度</p>	オムニバス方式

看護DX科目	保健医療福祉制度と看護	日本の厚生行政のしくみや看護職をはじめとする専門職が働く上で必要な法について学んだ上で、看護の対象者の健康と生活を支えるための基本的な保健医療福祉制度について理解する。  (オムニバス方式／全8回)  (104 福井純子／3回) 法の概念と看護をとりまく法律1、2、看護制度と関連する法律 (174 谷本真唯／1回) 母子と家族を守る制度と看護 (7 唐津ふさ／1回) 成人期にある人を守る制度と看護 (143 明野聖子／1回) 難病と感染症に関する法律 (173 舟橋久美子／1回) 高齢者と家族を守る制度と看護 (89 宮地普子／1回) 障害者を守る制度と看護	オムニバス方式
	看護技術論	看護実践の基盤となる看護技術について、その特性、対人関係を築く技術および看護過程について、講義とグループワークにより学修する。	
	看護技術各論 I	対象者のハイレベルのウエルネスを維持、促進、回復するための看護学的方略を理解し、看護過程の概念および基本的ニードを充足する援助方法について学習する。  (オムニバス方式／全15回)  (176 横川亜希子／7回) 1. 看護過程（アセスメント）1) 看護アセスメントの目的、2) 看護アセスメントの方法、3) 目的意識的な情報収集、4) フィジカルアセスメントのガイドラインと基本技法、5) バイタルサインズの測定とその活用、6) 身体各部の系統的アセスメント、7) 情報の分析解釈 (67 濱田淳一／1回) 1. 看護過程（アセスメント）8) 生活行動から見た人体構造機能 (177 山口夕貴／7回) 2. 活動・運動1) 活動・運動の意義と目的、2) 活動・運動ニードのアセスメント、3) 活動・運動ニードを充足する方法、3. 睡眠・休息1) 睡眠・休息ニードのアセスメントと充足する方法、2) 睡眠・休息ニードのアセスメントと充足する方法、3. 清潔1) 清潔の意義と目的、2) 清潔ニードのアセスメントと充足する方法	オムニバス方式
	看護技術各論 II	看護技術各論 I に引き続き、対象者のハイレベルのウエルネスを維持、促進、回復するための看護学的方略を理解し、看護過程の概念および基本的ニードを充足する援助方法について学習する。  (オムニバス方式／全15回)  (178 米川弘樹／9回) 1. 栄養と代謝 1) 栄養と代謝の意義と目的、2) 栄養・代謝ニードのアセスメント、3) 栄養と代謝ニードを充足する方法、3. 排泄 1) 排泄の意義と目的、2) 排泄ニードのアセスメント、3) 排泄ニードを充足する方法、5. 薬物療法時の看護 1) 薬物療法の目的と看護の役割、2) 薬物療法時のアセスメント、3) 薬物療法における看護援助 (176 横川亜希子／6回) 2. 看護過程（計画・実施・評価）1) 看護目標と具体策の立案、2) 看護目標における達成度の評価、4. 検査に伴う看護 1) 検査の目的と看護の役割、2) 検査に伴う看護技術、6. 心理・社会的側面 1) 心理社会的ニードに関連する概念、2) 心理社会的ニードのアセスメントとその充足方法	オムニバス方式
	在宅看護学各論	在宅で生活する療養者とその家族の多様なニーズと支援のあり方を学ぶ。  (オムニバス方式／全15回)  (30 竹生礼子／6回) 在宅療養者の理解と援助(1)、(2)、(6)、(7)、継続看護と多職種連携(7) (179 増田悠佑／2回) 在宅療養者の理解と援助(3)、(4) (113 中安隆志／1回) 在宅療養者の理解と援助(5) (93 川添恵理子／4回) 継続看護と多職種連携(1)、(2)、(3)、(4) (88 卷康弘／1回) 継続看護と多職種連携(5) (147 朝日まだか／1回) 継続看護と多職種連携(6)	オムニバス方式
	キャリア開発論 I	生涯発達を前提としながら看護専門職としてのキャリアの発達・開発について、キャリアの理論および医療・看護をとりまく社会の情勢等も踏まえて理解する。看護専門職としてキャリアを拓いていくにあたり、キャリアビジョンを明確化することの重要性を理解し、その実現に向けたキャリアデザインを行う際の基盤となる知識および必要な方法を習得する。	

看護倫理	<p>変化し続ける社会環境の中で看護師の倫理的役割をディスカッションし、看護における倫理的課題と専門職としての個人の責務を理解できることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 塚本容子・104 福井純子／1回) オーバービュー      (4 塚本容子／3回) 看護倫理概論1)、4)、グループ演習      (104 福井純子／7回) 看護倫理概論2)、3)、5)、臨床における倫理的ジレンマ1)、4)、5)、グループ演習・まとめ      (90 内ヶ島伸也／1回) 臨床における倫理的ジレンマ2)      (113 中安隆志／1回) 臨床における倫理的ジレンマ3)      (157 三津橋梨絵／1回) 臨床における倫理的ジレンマ6)      (119 山田拓・4 塚本容子・104 福井純子／1回) 臨床における倫理的ジレンマ7)</p>	オムニバス方式・共同（一部）
がん看護学	<p>がん経験者や家族への看護実践に必要となる主要な知識について講義形式で学びながら、人ががんとともに生きるという意味と看護の役割について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(86 熊谷歌織／12回) 1. がん医療と患者・家族を取り巻く状況と体験(1)、(2)、2. がん患者の症状マネジメント(1)、(2)、3. がんの集学的治療と看護(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、4. がんとの共存を目指す患者の看護、5. がん患者と緩和ケア(1)、(2)      (157 三津橋梨絵／3回) 6. がん患者の家族に対する支援、7. がん患者のエンド・オブ・ライフケア(1)、(2)</p>	オムニバス方式
セルフマネジメント支援論	<p>セルフマネジメントのための主要概念を学び、病と共に生きる対象者が治療・社会生活・自己の感情を含めマネジメントする方法を身につけるための支援について学ぶ。また、代表的な疾患の病態生理や治療の知識を活かし、具体的なセルフマネジメント支援について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(148 高木由希／11回) セルフマネジメント支援とは、代謝性疾患患者のセルフマネジメント支援①、②、肝疾患患者のセルフマネジメント支援①、②、③、心疾患患者のセルフマネジメント支援①、②、腎疾患患者のセルフマネジメント支援①、②、非がん性慢性臓器不全患者の人生の最終段階に向けたセルフマネジメント支援      (7 唐津由香／4回) 腸原病患者のセルフマネジメント支援①、②、呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援①、②</p>	オムニバス方式
クリティカルケア論	<p>成人病態と臨床実践の学びを発展させ、救命救急センターや集中治療室などに入室している生命危機状態にある患者や家族への援助を学ぶ。また、重症患者の特徴的病態や症状、急変時対応の基本や災害発生時の初期医療対応について学ぶ</p>	
セーフティマネジメント論	<p>セーフティマネジメントは、安全で良質な医療・看護を提供するために必要不可欠である。本講義では、医療安全、災害看護、感染管理の側面から、医療提供場面におけるセーフティマネジメントについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) （一部共同）</p> <p>(104 福井純子／8回) 医療安全管理概論1)、2)、3)、医療安全管理・災害1)、2)、演習1) 医療安全 (Aクラス)、(Bクラス)、(Cクラス)      (30 竹生礼子／5回) 災害看護1)、2)、演習2) 災害 (Aクラス)、(Bクラス)、(Cクラス)      (4 塚本容子・119 山田拓／7回) 感染管理1)、2)、3)、4)、演習3) 感染 (Aクラス)、(Bクラス)、(Cクラス)      (104 福井純子・30 竹生礼子・4 塚本容子・119 山田拓／1回) まとめ</p>	オムニバス方式・共同（一部）
看護管理論	<p>看護管理論では、医療・看護をとりまく環境を踏まえ、社会のニーズに対応した質の高い看護の提供のために、看護実践があるところすべてにおいて必要である看護管理（マネジメント）の諸機能について学ぶ。これらを通して、看護職に求められる役割と責務について探究する。</p>	
地域共生社会演習 I	<p>本科目は、地域における高齢や障害、病気や生活困窮など、自分とは異なる経験や暮らしをする人に対する自分の正義や価値観を養うグループワークを実施する。これらの力をベースに地域における実践的な思考や手法を養うため、地域に足を運び、ニーズを適切かつ俯瞰的に把握するための調査演習や把握されたニーズをもとに、事業構想をしていくための演習を実施する。また、構想を実現可能な事業として展開していくために社会資源の活用の手法を学び、履修生自らの事業運営及び事業の成果報告プレゼンテーションを行う。</p> <p>(180 大原裕介・221 近藤綾香・222 酒井美結／全30回) （共同）</p>	共同

アダプティッド・スポーツ演習		アダプティッド・スポーツについてその考え方を理解する。障がいやパラスポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導くための基礎的力を身につける。地域の大会や行事に積極的に参加し、地域のパラスポーツ振興を支えるための力を身につける。	
理学療法概論		理学療法士が業務を行うために必要な、理学療法の定義や歴史、具体的な内容について学ぶ。  (オムニバス方式／全8回)  (34 鈴木英樹／6回) オリエンテーション、理学療法士の業務や流れ、治療上の秘密保持、理学療法の歴史と定義、構成する各種技術、理学療法とリハビリテーション及び障害・理学療法士の実践分野と領域、理学療法士の実践分野と領域、理学療法士の役割、理学療法の先輩から学ぶ (33 小島悟／2回) 理学療法士に関する法律、理学療法（士）教育及び研究	オムニバス方式
音楽療法		多様な障がいに対する支援技術として音楽を用いるための基礎知識を習得する科目である。近代音楽療法の歴史、音楽の療法的役割について学ぶ。また、音楽を療法的に実践するための基礎的な音および音の表現の意味理解などについて演習を通じて学ぶ。  (オムニバス方式／全8回)  (71 近藤里美／5回) オリエンテーション、人と音楽の関わり、音楽の認知、音楽の療法的役割1、2 (220 増澤綾子／2回) 医療と音楽療法 (72 浅野雅子／1回) まとめ	オムニバス方式
レクリエーションスポーツマネジメント		本科目では実際に障がいがある人向けのレクリエーションスポーツ（アダプティッド・スポーツ）活動のあり方について学習する。実際に企画・実施・評価ができるよう、レクリエーションスポーツに関する基礎的な知識を身に着けるとともに、実際に一連の流れを体験する。	
障害者福祉論		ソーシャルワーク専門職として求められる障害者福祉の歴史、障害の概念、障害者に関する法体系、関連する専門機関や専門職の役割について学習する。	
ソーシャルワーク論 I		この講義では、ソーシャルワークの基盤と専門職としてのあり方について概説する。	
ソーシャルワーク論 II		この講義では、ソーシャルワークの基盤と専門職としてのあり方について、以下の点を中心に学ぶ（目的・ねらい）。① 社会福祉士（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）および精神保健福祉士の意義と役割について理解する。② 相談援助の概念と理念について理解する。③ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について概説できる。④ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について概説できる。⑤ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携に意義と内容について概説できる。  (オムニバス方式／全15回)  (24 橋本菊次郎／10回) 相談援助に係る専門職の概念、ソーシャルワークの価値と倫理①、②、③、ソーシャルワークの新しい価値基盤①、②、専門職倫理と倫理的ディレンマ①、②、③、総合的かつ包括的な援助と多職種連携 (32 高橋亮／5回) ソーシャルワークの対象と担い手 I、II、III、IV、総合的かつ包括的な援助と多職種連携	オムニバス方式
福祉と当事者のリアル I		本科目は、地域社会で生きる多様で複雑な課題を抱えた全国でも著名な当事者や実践者をお招きし、リアルに触れる講話やディスカッションを実施する。相手や自分の価値観に出会い、「誰のために、何のために」これから学び、専門職として働いていくかを考える機会とする。  (オムニバス方式／全8回)  (180 大原裕介・221 近藤綾香・222 酒井美結／7回) オリエンテーション、初回振り返り、大人の発達障害、認知症は社会をケアする、中間振り返り、子どもの貧困に向き合う、最終振り返り (180 大原裕介・221 近藤綾香・222 酒井美結・73 向谷地生良／1回) これから社会と私	オムニバス方式・共同
児童福祉論		子どもと家族の現状をふまえた上で、その課題やニーズに対する、児童福祉に関する制度や政策についての基本的な理解を得ることを目的とする。特に、子どもという存在の特性を理解した上で、児童福祉の理念と発展過程、児童福祉法と機関、児童福祉の実際況、子どもの貧困と人権問題の現状、児童福祉の課題について考える。	

福祉DX科目	スクールソーシャルワーク論	<p>今日の深刻化する教育現場が抱える課題や子どもたちを取り巻く問題状況の解決に、スクールソーシャルワーカーを導入する意義を学ぶ。また子どもの最善の利益と教育保障に貢献するスクールソーシャルワーカーの実践理論と支援方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (一部共同)</p> <p>(74 福間麻紀／14回) わが国のスクールソーシャルワーカー導入の背景と意義、子どもを取り巻く環境（学校・家庭・地域）の理解 1、2、3、スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理、スクールソーシャルワークの発展過程、スクールソーシャルワークの支援方法（ミクロレベル）、（メゾンレベル）、（マクロレベル）、スクールソーシャルワークの実践1、2、教師や学校・教育機関の理解と協働、スクールソーシャルワークの実践モデル、スーパービジョン</p> <p>(75 富家直明・74 福間麻紀／1回) スクールカウンセラーの理解と協働</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	発達心理学II	<p>人の発達は成人になって終わるわけではない。本講義では、大人への移行期である青年期から人生の終わりまでの発達について論じる。青年期以降では、人の発達は社会・文化・歴史との絡み合いを避けて通ることができず、その中で、発達上の問題も生じる。また、大人の発達は、家族形成や労働を通じて、次世代育成が大きな課題となり、子どもを含む次世代の発達と重層的に論じる必要がある。人の発達を幅広い視点で捉え、現実の問題解決につながる発達的視点の獲得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(159 金山裕望／5回) オリエンテーション、社会性の問題①、②、親としての発達①、②</p> <p>(223 大倉雄一／10回) 知能指数、知能の構造、キャリア理論①、②、青年期の発達、成人期の発達、中年期の発達、壮年期の発達、高齢者の心理社会的課題と必要な支援①、②、老年期の臨床的問題の理解と支援</p>	オムニバス方式
	認知症ケア論	<p>認知症高齢者が増加し続ける今、介護現場や介護職だけではなく、あらゆる領域の専門職にとって認知症ケアの知識や技術は不可欠となっている。そこで本講義では、社会福祉の専門職として必要な認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症を抱える人やその家族、周囲の環境にも配慮したケアや、関わる上で必要な知識や技術を習得する。DVDの視聴、事例の検討等を通して、アセスメントや関わり方について実践的に学ぶとともに、チームアプローチを行う上で不可欠な自分の意見や考えを、根拠をもって他者に説明できる力を身につけることをを目指す。</p>	
	家族療法	<p>家族支援に使える家族療法について学ぶ。家族療法の歴史的発展と主要な認識論について探究しこの分野で採用されている様々な方法論（ナラティブセラピー、カップルカウンセリング、オープンダイアローグ、当事者研究）の入門的な比較と検討をする。家族療法の現在の傾向や問題点などについても事例を使いながら学ぶ。</p>	
	マーケティング論	<p>本講義は、社会起業家をゲストスピーカーとして招き、現代社会の課題解決に向き合う実践的講義から社会的ニーズの把握から資源開発までのソーシャルビジネスにおけるマーケティングの手法を学ぶ。また、ゲストスピーカーの講義と組み合わせ、振り返りグループワークを実施し、ソーシャルビジネスの果たしている機能と役割及びマーケティング手法の思考を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (共同)</p> <p>(180 大原裕介・224 河内崇典・222 酒井美結／2回) オリエンテーション、まとめ</p> <p>(180 大原裕介・224 河内崇典／6回) 制度を超えた福祉展開の理解、生活困窮者、ホームレス支援の現場のリアルを理解する、大学生主体のソーシャルビジネスの現場のリアルを理解する、ひきこもりの居場所支援の現場のリアルを理解する、発達障害児を対象としたソーシャルビジネスのリアルを理解する、ひとり親の子どもに対する生活・学習支援の現場のリアルを理解する</p> <p>(180 大原裕介・222 酒井美結／7回) 制度を超えた福祉展開の理解、生活困窮者、ホームレス支援の現場のリアルを理解する、大学生主体のソーシャルビジネスの現場のリアルを理解する、ひきこもりの居場所支援の現場のリアルを理解する、発達障害児を対象としたソーシャルビジネスのリアルを理解する、ひとり親の子どもに対する生活・学習支援の現場のリアルを理解する、福祉現場と大学生をつなぐ中間支援組織のソーシャルビジネスについて理解する</p>	オムニバス方式・共同
	マネジメント論	<p>本授業の目的は、「マネジメント論＝経営学の楽しさ」を知つてもらうことです。経営学は、経営活動の実践の場での論理的な発想を身に付けるための学問です。実践と経営学は表裏一体のため、経営学を身に付けることは世の中を見つめる目を養うことにもつながります。講義内では、ケーススタディとディスカッションも行います。医療分野においてもマネジメント論の重要性や関心が高まっています。集中講義で一気にマネジメント論＝経営学のエッセンスを理解してもらえる授業にします。皆さまの積極的な参加をお待ちしております。</p>	

権利擁護・成年後見制度論		この授業は、社会保障制度や社会福祉制度の利用に関して、「法律」という観点からの知識を整理するための時間となる。はじめに、「契約」に関する基礎知識を学んだ上で、判断能力が不十分な人を支援するための重要な仕組みである「成年後見制度」について、その目的、利用手續、種類を学ぶ。また、相談援助を行う者の知識として必要となる、民法（主に親族法や相続法など）や行政法（特に行政救済法）、社会福祉関連法の基礎的知識を身につけることを目指す。	
リハビリテーション論		本講義では、以下①～⑤の知識修得が目的となる。具体的には、①リハビリテーションの理念や障害の見方、②医学的リハビリテーションにおける身体機能障害や精神機能障害を呈する代表的な疾患に関する知識や具体的なリハビリテーション、③加齢に伴う心身障害のメカニズムやリハビリテーション、④代償機能や環境整備、⑤地域リハビリテーションの概要や介護予防の観点についてである。  (オムニバス方式／全15回)  (22 坂上哲可／6回) リハビリテーションの理念と役割、中枢神経系障害に対するリハビリテーション1、2、3、運動器機能障害に対するリハビリテーション、呼吸・循環器系障害に対するリハビリテーション (116 浅野葉子／4回) 代償機能や環境整備について①、②、地域リハビリテーションについて①、② (94 児玉壯志／5回) 精神障害のリハビリテーション①、②、③、加齢に伴う心身の障害①、②	オムニバス方式
高齢者福祉論		介護保険制度の仕組み・サービスについて学ぶとともに、地域で高齢者を支援するための方法や課題について学習する。	
認知症と生活支援		認知症高齢者の生活を支援する観点から、身体的・精神的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。  (オムニバス方式／全15回) (一部共同)  (9 池森康裕／11回) オリエンテーション、認知症ケアの理念、認知症の症状と生活支援、認知症の種類と症状①、②、③、認知症の人の特性理解、認知症ケアの実際②、④、⑤、⑥、⑧、認知症の人を地域でサポートする仕組みづくり (9 池森康裕・173 船橋久美子／1回) 認知症の人の生活理解 (9 池森康裕・150 高橋由紀／1回) 認知症ケアの実際① (9 池森康裕・20 山田律子／1回) 認知症ケアの実際③ (32 高橋亮／1回) 認知症ケアの実際⑦	オムニバス方式・共同（一部）
学習・言語心理学 I		心理学において学習とは経験による比較的永続的な行動の変容を意味する。我々のほぼ全ての行動は学習の影響を受けるため、学習の原理の理解は心理学において非常に重要である。本講義では、学習の基本原理である古典的条件づけと道具的条件づけを中心に、人の行動が変容する過程について、基礎的な知識に加えて最新の研究までを具体的な実験例に基づき解説する。	
学習・言語心理学 II		言語は人間が持つ多くの心的機能の中で最も重要なものの一つである。どんなに単純な言語表現であっても、それを理解し産出するためには多くの知識や処理が動員される。この講義では人間の言語情報処理に関わる認知プロセスについて学ぶ。	
知覚・認知心理学		我々が外部からの情報を捉え（知覚）、それを蓄えたり（記憶）、処理して判断したり（思考）、といった内部のプロセス（認知）について心理学がこれまで明らかにしてきたことを理解し、臨床への応用を考える。	
感情・人格心理学 I		パーソナリティ（人格、性格）は、臨床心理学のみならず、発達心理学や社会心理学、教育心理学など多くの領域で、さまざまな捉え方がなされている。「パーソナリティとは何か」という問い合わせに対する答えも一つではなく、さまざまな角度、視点から、パーソナリティについて捉える試みが必要である。本講義では、パーソナリティやパーソナリティの発達、適応、変化などに関する基本的な概念や理論について幅広く学んでいく。	
感情・人格心理学 II		感情と心理的側面との関連性を理解することを目指し、主要な感情研究と理論に関する専門的知識を身につける科目である。	
教育・学校心理学 I		スクールカウンセラーが、幼児児童生徒、保護者及び教職員に対する相談・援助などを行うことにより、不登校・いじめ、暴力行為、などの諸課題への未然防止、早期発見、事後対応、障害を持つ児童生徒への支援、心理検査、学校への助言、保護者との連携や支援等の必要な対応を行う上で基本となる教育心理学を中心にアクティブラーニング型の講義を行う。	
教育・学校心理学 II		学齢期の子どもの発達と教育に関する基礎理論、子どもの心理的問題について理解することに加えて、必要となるアセスメントの方法と心理的支援法を修得することを目的として、将来の公認心理師に必要とされるリテラシーを涵養する。主体的で対話的な学び（アクティブラーニング）を取り入れた授業を行う。	

心理DX科目	司法・犯罪心理学	犯罪、非行、犯罪被害、家庭内・親族間紛争、民事事件等の領域における心理支援の基礎的知識、当面する課題を学ぶ。さらに、これら領域に携わる各機関の役割や業務の基本的事項について理解する。家事、民事事件の領域では、離婚と子ども、虐待、後見制度等について学ぶ。逸脱行動や紛争は心理的な要因のみで生じるものではなく、環境・状況・社会的要因や生物学的要因などが複雑に関連して生じるので、本講義ではそれら要因も視野に入れた理論や支援策について概説する。	
	心理学研究法	心理学において科学的研究を行うことの意義を理解し、実験法、調査法、観察法等の主要な研究手法について概観するとともに、各手法に関する専門的知識を身につける科目である。	
	心理学統計法Ⅰ	心理学の研究を行うにあたって、実験や調査で得られたデータの解析を行うことは必須である。この講義では、心理学で多用される統計的データ分析法のうち基本的なものについて理解し、論文の統計的記述を理解できるようになると共に、それらを用いて実際に分析が行えるようになることが目標である。	
	心理学統計法Ⅱ	この講義では、心理学研究において広く用いられている研究手法のひとつである質問紙法、および質問紙法のデータ分析においてよく用いられる多変量解析の方法について解説する。質問紙法の意義や実施の方法、結果の分析方法について解説し、研究目的に応じた質問紙の作成・分析を自ら行えるようになることを目的とする。	
	心理情報処理	心理学で扱うデータは、誤差を多く含んでいることや同時に関連する多数の変数を測定していることが特徴である。このため、データへ高度な統計的処理を行い、結果を解釈する力が要求される。この講義では、Rと呼ばれる統計解析用のソフトウェアを各自のパソコンにインストールし利用しながら心理学的なデータに対する統計的処理を学習する。また、Rによるプログラミングについてオンドマンドによる学習を行う。	
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	人間は社会的動物である。集団内での人々の相互作用が社会を生みだし、また一方、人間の社会的判断・行動の性質は社会を適応環境として、他者との相互作用の中でうまく機能するかたちで獲得されてきたと考えられている。この講義では、人間の備える社会的認知や判断、行動の性質について学び、人間行動や社会現象を科学的視点から捉えることができるようになることを目的とする。	
	産業・組織心理学	働くこと、組織に属すること、物を売買することなど、本分野は人間の生活行動との密接な関わりを有する。主に「労働」「集団・組織」「職業」「販売・消費行動」の4領域における心理学的・臨床的知見を学び、労働者や組織に対する支援の実践に必要な基本的知識を身につける。	
	労働安全衛生論	労働法、社会保険法は、企業等における雇用の場で発生するさまざまな問題を解決するためのルールである。本科目は卒業後、人生における相当の期間を費やす社会人生活に必要な労働法・社会保障制度及び現在の労働市場、雇用環境等を学ぶ。また心の問題を支援する技能を修得するため、職場のハラスメント、過労死防止、企業の安全配慮義務の知識を学ぶ。	
	行動経済学	人間行動や社会現象を解釈し将来を予測するためには、個々人の心や行動の特性について知るのみならず、個人間の相互作用におけるダイナミクスについて知る必要がある。この講義では、個人の意思決定や確率判断、選好における個人のバイアスや特性に関し行動経済学で示されてきた主要な知見について学ぶとともに、集団での相互作用や意思決定場面において、どのようにして判断や行動が生じるかについて学ぶことを目的とする（一部、社会的相互作用に関する社会心理学の知見も紹介する）。	
	障害者・障害児心理学	公認心理師の支援対象である、様々な障害を抱えた人の特徴と心理社会的課題、必要な支援について学ぶ科目である。	
	福祉心理学	福祉心理学は臨床心理学に含まれる領域と福祉・医療・司法などの制度や専門職と関わる領域である。この講義では、福祉心理学に含まれる理論や支援法を概観すると共に、公認心理師が接する福祉・医療・司法の領域での実践についても基礎的な理論や考え方を学ぶ。	
	健康・医療心理学Ⅱ	公認心理師の活躍の場は多岐にわたり、精神科医療だけでなく、さまざまな疾患における心理的支援や多職種連携が求められている。本講義では、健康・医療心理学Ⅰやアセスメント、支援法などで学んだ知識を基に、実習科目で求められる知識の習得を目指す。	

	心理学的支援法 I		公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって「心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと」を業とする者とされている。本講義では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義とその適応や限界について専門的知識を修得する。さらに、心理支援の選択や調整、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮について、専門的知識を修得する。	
	心理学的支援法 II		公認心理師は、医療や福祉、教育、司法、産業と様々な現場での活躍が期待されている。公認心理師に求められている業務内容として、心理に関する支援を要するものに対し、その心理に関する相談に応じ、助言・指導、その他の援助を行うことが明記されている。本講義では、心理学的支援法 I に続き、代表的な心理療法の歴史、概念、意義とその適応や限界について網羅的に学び、公認心理師に必要な支援に関する専門的知識の修得を目指す。さらに、訪問による支援や地域支援の概要や意義についても修得を目指す。	
	発達心理学 I		この科目は、時間経過に伴う人間の発達過程と、そのプロセスで起こる様々な問題について学ぶ科目である。	
	小児科学		小児科学は幅広く周産期、出生から思春期に至るまでを対象とする医学である。小児は成人とは異なり、さまざまな体の成長に伴う変化があり、疾患も小児特有のものが多い。感染症などの外部からの侵襲、遺伝的要因などの病因や病態生理を理解し、子どもに関わる現場で活かせる知識を身につけることが求められる。	
	精神疾患とその治療		医学における精神的侧面を対象とし、身体医学とともに医学の二大分野を構成する精神医学の総論と個別疾患に対する理解を深めるために開講する。公認心理師資格取得のための必修科目であり、受験予定期は履修する必要がある。	
数理・アルゴリズム		○	<p>医療野で活躍するデータサイエンティストに必要なプログラミングや統計に関わる数理・アルゴリズムの知識を修得します。まず、変数、定数、繰り返し、条件、変数、関数などの基本概念や構造を学びます。そのうえで、ソートアルゴリズム、検索アルゴリズム、データベース設計などを学び、臨床データの効率的な整理、検索、およびデータ管理に応用できるようにします。なお、学環のプラットフォームサイトでは講義の発話がAIにより他言語へ変換されており、基幹教育科目のすべての講義も英語で視聴できます。データサイエンス領域における英語運用能力も高められるようにします。</p> <p>授業は3回を1ユニットとして、5ユニットを実施します。各ユニットの1回目と2回目を二瓶裕之が担当(1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目)して、3回目を米田龍大が担当します(3, 6, 9, 12, 15回目)。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>2 二瓶裕之(1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目／10回)        ・第1回プログラミング入門と環境設定、第2回データ型と変数、第4回制御構造（条件分岐）、第5回制御構造（ループ）、第7回配列とコレクション、第8回文字列操作、第10回ファイル操作、第11回デバッグ技術、第13回基本的なデータ分析、第14回データの可視化        10 米田龍大(3, 6, 9, 12, 15回目／5回)        ・第3回演算子と式、第6回関数の基礎、第9回例外処理、第12回モジュールとライブラリ、第15回数理アルゴリズムのまとめ</p>	オムニバス方式
プログラミング演習		○	<p>「数理・アルゴリズム」で学んだ基礎知識をもとに、データサイエンティストにとっての実践につながる課題を演習形式で解決します。ソートアルゴリズムや検索アルゴリズムなどを用いたデータ処理の課題に取り組み、臨床データの整理・検索の実践的なスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>(2 二瓶裕之・8 西牧可織・10 米田龍大／全15回) (共同)</p>	共同

データサイエンス実習	○	<p>「数理・アルゴリズム演習」で修得したスキルを活かし、データサイエンティストにとって、より実践的なデータ処理やアルゴリズムの実装に取り組みます。実習では、臨床データや医療統計データを扱いながら、データベース設計・管理のスキルを応用します。また、Pythonを用いたデータ操作、基本的なデータ分析手法を実装して、医療データサイエンスにおける課題解決能力と瞬発力を養います。</p> <p>第一回授業は、5名すべての教員が担当をします。塚本容子はデータサイエンスと看護のトピックス、池森康裕はデータサイエンスと福祉・介護（VRや介護ロボットなど）のトピックスについて講義して、医療のフィールドにおけるデータサイエンスの活用状況の概論を講義します。これを踏まえて、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名が、医療のフィールドにおいて活用されるデータサイエンスの具体的な技術について講義します。第二回授業以降は、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）（共同）</p> <p>（2 二瓶裕之・4 塚本容子・8 西牧可織・9 池森康裕・10 米田龍大／1回）（共同）      （2 二瓶裕之・8 西牧可織・10 米田龍大／29回）（共同）</p>	オムニバス方式・共同
ニューラルネットワーク基礎	○	<p>医療分野で活躍するデータサイエンティストに必要なニューラルネットワーク、機械学習、深層学習のアーキテクチャを学びます。臨床の現場において扱われる数値データからなるビッグデータを用いて、回帰型予測や分類型予測を行なう知識を身に着けます。臨床データ（数値）を扱う医療系基礎教育科目との連携を図ることで、「臨床」×「予測・判断」の学びを深めます。</p> <p>授業は3回を1ユニットとして、5ユニットを実施します。各ユニットの1回目と2回目を二瓶裕之が担当（1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目）して、3回目を西牧可織が担当します（3, 6, 9, 12, 15回目）。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>2 二瓶裕之（1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目／10回）      第1回臨床AIの概論、第2回機械学習の概念、第4回教師なし学習、第5回データの前処理、第7回線形回帰（単回帰）の基礎、第8回モデルの評価、第10回モデルの評価、第11回深層学習の導入、第13回AI倫理、第14回AIによる臨床判断のサポート      8 西牧可織（3, 6, 9, 12, 15回目／5回）      第3回教師あり学習、第6回ニューラルネットワークの基本、第9回線形回帰（重回帰）の基礎、第12回モデルのチューニング、第15回ニューラルネットワーク基礎のまとめ（学環プラットフォームサイトから講義を英語で視聴できます）</p>	オムニバス方式
ニューラルネットワーク演習	○	<p>「ニューラルネットワーク基礎」で学んだ知識をもとに、機械学習や深層学習の技術を使って、医療現場における課題を演習形式で解決します。臨床データを機械学習させたニューラルネットワークにより、回帰型や分類型の予測を使って課題を解決する実践的なスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>（2 二瓶裕之・8 西牧可織・10 米田龍大／全15回）（共同）</p>	共同
ニューラルネットワークプロジェクト実習	○	<p>「ニューラルネットワーク演習」で修得したスキルを活かし、データサイエンティストにとって、より実践的なニューラルネットワークの実装に取り組みます。医療系基礎教育科目において医療専門職を目指す学生と共に学びながら発見した問題や課題に対して、回帰型や分類型の予測を使って瞬発力をもって解決できるスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>（2 二瓶裕之・8 西牧可織・10 米田龍大／全30回）（共同）</p>	共同

医療データサイエンス入門 I	○	<p>日本が目指すSociety 5.0の到来が目前に迫ったいま、薬剤師が活躍する医療分野においても、画像認識や医療診断など「数理・データサイエンス・AI」の知識と、それを活用する技能の修得は欠かせない。「医療データサイエンス入門 I」では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)」認定制度で指定された応用基礎コア「I. データ表現とアルゴリズム」と「II. AI・データサイエンス基礎」を扱う。また、模型都市を教材として使いながら、ニューラルネットワーク(NN)や畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の原理を修得することで、将来活躍する臨床検査の分野において、数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。</p> <p>(2 二瓶裕之・8 西牧可織／全15回) (共同)</p>	共同
畳み込みニューラルネットワーク基礎	○	<p>医療分野で活躍するデータサイエンティストにとって重要な画像認識技術の基盤となる「畳み込みニューラルネットワーク」のアーキテクチャを学びます。人体構造と畳み込み層・ブーリング層の対応関係を踏まえながら、畳み込みニューラルネットワークの構造を理解します。そのうえで、畳み込みニューラルネットワークにより画像を認識したり、物体を検出するスキルを修得しながら、「臨床」×「認識」の学びを深めます。</p> <p>授業は3回を1ユニットとして、5ユニットを実施します。各ユニットの1回目と2回目を二瓶裕之が担当 (1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目)して、3回目を西牧可織が担当します(3, 6, 9, 12, 15回目)。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>2 二瓶裕之(1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14回目／10回) 第1回イントロダクションと画像処理の基礎、第2回デジタル画像の基本、第4回画像の前処理技術（1）、第5回画像の前処理技術（2）、第7回畳み込みニューラルネットワークの基本、第8回畳み込み層とブーリング層、第10回畳み込みニューラルネットワークの応用、第11回トレーニングデータセットの準備（1）、第13回物体検出の基礎、第14回モデルの評価と微調整 8 西牧可織(3, 6, 9, 12, 15回目／5回) 第3回基本的な画像操作、第6回基本的な画像認識技術、第9回活性化関数とネットワークの学習、第12回トレーニングデータセットの準備（2）、第15回畳み込みニューラルネットワークのまとめ (学環プラットフォームサイトから講義を英語で視聴できます)</p>	オムニバス方式
画像認識演習	○	<p>「畳み込みニューラルネットワーク基礎」で学んだ知識をもとに、画像認識や物体検出を行うスキルを使って、医療現場における課題を演習形式で解決します。演習では、臨床の現場において扱われる画像・映像データを用いることで、医療に関わる画像・映像データの特徴をつかみながら、画像認識や物体検出技術を使って課題を解決する実践的なスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、西牧可織が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>(8 西牧可織・10 米田龍大／全15回) (共同)</p>	共同
画像認識プロジェクト実習	○	<p>「画像認識演習」で修得したスキルを活かし、医療分野で活躍するデータサイエンティストにとって、より実践的な画像認識・物体検出のスキルを修得します。医療系基礎教育科目において医療専門職を目指す学生と共に学びながら発見した画像解析に関わる課題に対して、画像認識・物体検出の技術を使って瞬発力をもって解決できるスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、西牧可織が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>(8 西牧可織・10 米田龍大／全30回) (共同)</p>	共同
医療データサイエンス入門 II	○	<p>薬剤師業務においても重要な「数理・データサイエンス・AI」を使いこなせる技能を修得する。「医療データサイエンス入門 II」では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)」認定制度で指定された応用基礎コア「III. AI・データサイエンス実践」を扱う。模型都市を教材として使いながら、データエンジニアリングにおけるデータ収集・加工、学習、評価といった一連の流れを修得する。また、模型都市を対象とした「データ・AI活用 企画・実施・評価」の実践の場を通じて、数理・データサイエンス・AIの活用における一連のプロセスの理解を深め、人や社会にかかわる具体的な課題の解決に活用できる能力を修得する。</p> <p>(2 二瓶裕之・8 西牧可織／全15回) (共同)</p>	共同

データ・テキスト生成AI	○	自然言語処理から始めて、Doc2Vec、BERT、transformerなどのアーキテクチャを学び、テキスト生成AIの基礎技術に関する知識を修得します。その上で、GAN(敵対的生成ネットワーク)によりデータ・テキスト・画像が生成される仕組みを学びます。生成AIが、どのようなプロセスで、文章を作ったり画像を描いたりしているのかを理解することで、生成AIが抱える倫理的問題についても、自らの意見や考えを明確にできるようになります。（学環プラットフォームサイトから講義を英語で視聴できます）	
クラウド生成AI演習	○	「データ・テキスト生成AI」で学んだ知識をもとに、クラウドサービスとして提供されている各種の生成AIモデルを活用する技術を修得します。API (Application Programming Interface) 技術の仕組みを理解したうえで、各種生成AIモデルの機能や利用方法を学び、各種の生成AIモデルに対するAPI keyを取得する方法を学びます。さらに、API keyを使って、各種生成AIに対して要求を送信し回答を受信するプロセスを学びます。 全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。 (2 二瓶裕之・10 米田龍大／全15回) (共同)	共同
生成AI活用プロジェクト実習	○	「クラウド生成AI演習」で修得したスキルを活かし、医療分野で活躍するデータサイエンティストとして、倫理的観点を含めた医療人としての視点から、生成AIを活用できるスキルを修得します。医療系専門教育科目において自ら発見した課題に対して、生成AIなどの先進的データサイエンス技術を活用した解決策を提案し、実行できるようになります。また、単に、解決するだけではなく、手を動かしながらAI・生成AIの倫理観を体験することで、倫理的な判断に基づいて、医療の現場で生成AIを利用するときの留意点を自ら説明できるようになります。 全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。 (2 二瓶裕之・10 米田龍大／全30回) (共同)	共同
ロボットプログラミング実習	○	ロボットからセンシングして得たデータなどをもとにして、数値、画像、文字に対する多様なニューラルネットワークモデルを使いながら、ロボット・メカトロニクスを学びます。授業では、命令駆動型やデータ駆動型で動作するロボットの制御技術も学ぶことで、手を動かしながら、命令駆動とデータ駆動の仕組みの違いを体験します。	
AIプロジェクト基礎	○	医療専門職を目指す学生と共に学んだケーススタディーを通じて、実践的な課題を発見し、それを先進的データサイエンスにより解決するための方法を学ぶ。医療系基礎教育科目や医療系専門教育科目の授業内容から、どのようにして課題を見つけ出し、課題を解くために必要となるデータをどのように取得し、データサイエンスにおけるどのようなスキルを活用して解決していくのかといった一連のプロジェクトを遂行する工程を具体的に学ぶ。（学環プラットフォームサイトから講義を英語で視聴できます）	
医療AIプロジェクト演習	○	「AIプロジェクト基礎」で学んだ課題解決の工程をもとに、自ら発見した医療分野における問題や課題を演習形式により解決します。まず、医療系専門教育科目において、医療専門職を目指す学生と共に、北海道における医療や福祉の現場を直接見聞きしながら、問題や課題を見つけ出します。次に、これらの課題を解決する方策を練りますが、演習のポイントは、課題解決に関わるビッグデータもAIにより生成する点です。最後に、生成したビッグデータを用いて、データ駆動型の発想で課題を解決するプロセスを体験します。第一回授業は、3名すべての教員が担当します。6 唐津ふさは現在の医療現場で使われているAIなどの最新動向について紹介し、医療現場が直面している現場の課題を提示します。これを踏まえて、西牧可織、米田龍大の2名が、データ駆動型をベースとした具体的な技術について講義します。第二回授業以降は、西牧可織、米田龍大の2名で担当します。各回の授業開始冒頭において、西牧可織が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。 (オムニバス方式／全15回) (共同) (7 唐津ふさ・8 西牧可織・10 米田龍大／1回) (共同) (8 西牧可織・10 米田龍大／14回) (共同)	オムニバス方式・共同

データサイエンス・AIプロジェクト実習	○	<p>「医療AIプロジェクト演習」で修得したスキルを活かし、先進的データサイエンスにより医療をフィールドとした課題を解決するスキルを醸成します。北海道といった地域の特性や社会的背景から生まれる医療・保健・看護・福祉・心理のフィールドにおける課題を、データサイエンス・AIにより解決します。課題解決にあたっては、患者中心のケア、医療倫理の遵守、チーム医療などの医療人としての視点に立つことを特に重視し、それにより、課題解決のプロセスがどのように変わってくるのかを自ら具体的に説明できるようになります。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、西牧可織が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>(8 西牧可織・10 米田龍大／全30回) (共同)</p>	共同
マルチモーダル生成AI	○	<p>テキスト、音声、画像、動画など多様な形式を組み合わせたデータを処理できる生成AIであるマルチモーダル生成AIの仕組みや技術動向について学びます。医療系基礎・専門教育科目との連携を図ることで、倫理的な観点も含めた潜在的な危険性も考慮しながら、健康や医療の分野においてマルチモーダル生成AIを利用するための知識を修得します。(学環プラットフォームサイトから講義を英語で視聴できます)</p>	
ローカル生成AI構築演習	○	<p>クラウド環境ではなく、自身のコンピューターに大規模言語モデル（ローカル LLM:Large Language Model）を構築します。特に、Pythonなどのプログラミングコードを生成するLLMを構築し、いつでも、どこでも、プログラミングの辞書としてLLMを活用できる環境を作成するスキルを修得します。</p> <p>全授業を担当教員全員で担当します。各回の授業開始冒頭において、西牧可織が演習課題の解説を担当します。解説の後、演習課題に取り組むときには、米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。</p> <p>(8 西牧可織・10 米田龍大／全15回) (共同)</p>	共同
データ駆動型プロジェクト実習（インターンシップ）	○	<p>将来のキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）に参加することで、実社会における課題や問題を体感して、職業観・勤労観を高めます。授業の序盤では、インターンシップの事前学修を行うとともに実習先に関する情報収集などをしながら業務内容の理解を深めます。授業の中盤では現場での実習（ボランティアなども含む）を行って、就業体験をしながらコミュニケーションスキルも磨きます。終盤には、授業全般を通じて学んだ内容についてレポートにまとめるとともに、インターンシップの報告・ビアレビューも実施します。併せて、就職活動の準備としてエントリーシートの書き方なども演習形式で学びます。</p> <p>第一回授業は、6名すべての教員が担当します。塙本容子、池森康裕、野田昌道が、それぞれ、看護、福祉（介護）、心理の現場での就業に關わる話題提供をします。これを踏まえて、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名が、今までに修得してきた基幹教育科目での学修内容が、どのように活用できるのかを具体的な事例をもとに解説します。第二回目以降の学内実習においては、各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室内を巡回しながら、学生の質問等に対応します。学外実習（インターンシップ）においては、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名が、インターンシップを担う企業との対応、また、学生対応にあたります。さらに、塙本容子と池森康裕は、それぞれ、看護と福祉（介護）の現場の見学を担当します。</p> <p>(オムニバス方式／全30回) (一部共同)</p> <p>(2 二瓶裕之・4 塙本容子・8 西牧可織・9 池森康裕・10 米田龍大・12 野田昌道／1回) (共同)</p> <p>(2 二瓶裕之・8 西牧可織・10 米田龍大／26回) (共同)</p> <p>(4 塙本容子／3回) 現場見学</p> <p>(9 池森康裕／3回) 現場見学</p>	オムニバス方式・共同（一部）

卒業研究Ⅰ	○	<p>「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は、臨床データサイエンス学環における学びの集大成となります。医療人を目指す学生とともに学んだフィールドワークを起点として、地域の特性や社会的背景から生まれる課題をデータサイエンスにより解決します。「卒業研究Ⅰ」では、課題が生じた背景を調査したうえで、データサイエンスにより、どのように解決していくべきかといった課題解決のための計画を立案します。立案した計画に沿って研究を進めのなかで、計画通りに課題が解決されるとは限らないことを実感し、トライアンドエラーを重ねながら、より最適な解決策を模索します。</p> <p>(2 二瓶裕之・3 笠師久美子・4 塚本容子・5 鎌田樹寛・6 新岡丈治・7 唐津ふさ・8 西牧可織・9 池森康裕・10 米田龍大・11 志水幸・12 野田昌道／全15回) (共同)</p>	共同
卒業研究Ⅱ	○	<p>「卒業研究Ⅱ」では、「卒業研究Ⅰ」で取り組むこととした課題解決の方策に対して、医療人の視点に立つことが、課題解決の方策にどのような影響を与えるのかを他者に説明できるようにしながら、課題の解決に取り組みます。卒業研究の成果については、学内外における研究発表やコンペティションの場において報告することで、研究結果のまとめ方やプレゼンテーションのスキルを磨きます。</p> <p>(2 二瓶裕之・3 笠師久美子・4 塚本容子・5 鎌田樹寛・6 新岡丈治・7 唐津ふさ・8 西牧可織・9 池森康裕・10 米田龍大・11 志水幸・12 野田昌道／全45回) (共同)</p>	共同

学校法人東日本学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
<b>北海道医療大学</b>								
薬学部								
薬学科 (6年制)	160	4	1,000	薬学科 (6年制)	160	4	1,000	
		3年次	5			3年次	5	
歯学部								
歯学科	80	-	480	歯学科	80	-	480	
看護福祉学部	100	-	400	看護学科	100	-	400	
福祉マネジメント学科	80	5	330	福祉マネジメント学科	80	5	330	
		3年次				3年次		
心理科学部								
臨床心理学科	75	-	300	臨床心理学科	75	-	300	
リハビリテーション科学部								
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚療法学科	60	-	240	言語聴覚療法学科	60	-	240	
医療技術学部								
臨床検査学科	60	-	240	医療技術学部				
				臨床検査学科	60	-	240	
<hr/>								
計	735	4	3,470	計	735	4	3,470	
		3年次	10			3年次	10	
<hr/>								
<b>北海道医療大学大学院</b>								
薬学研究科								
薬学専攻 (4年制D)	3	-	12	薬学研究科				
				薬学専攻 (4年制D)	3	-	12	
歯学研究科								
歯学専攻 (4年制D)	18	-	72	歯学研究科				
				歯学専攻 (4年制D)	18	-	72	
看護福祉学研究科								
看護学専攻(M)	15	-	30	看護学研究科				
看護学専攻(D)	2	-	6	看護学専攻(M)	15	-	30	
臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(D)	2	-	6	
臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	
心理科学研究科								
臨床心理学専攻(M)	20	-	40	心理科学研究科				
臨床心理学専攻(D)	2	-	6	臨床心理学専攻(M)	20	-	40	
リハビリテーション科学研究科								
リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10	リハビリテーション科学研究科				
リハビリテーション科学専攻(D)	2	-	6	リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10	
医療技術科学研究科								
臨床検査学専攻(M)	4	-	8	リハビリテーション科学専攻(D)	2	-	6	
臨床検査学専攻(D)	2	-	6	医療技術科学研究科				
				臨床検査学専攻(M)	4	-	8	
				臨床検査学専攻(D)	2	-	6	
<hr/>								
計	80	-	212	計	80	-	212	
<hr/>								
<b>北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校</b>								
歯科衛生科(3年制)	50	-	150	歯学部等連係課程				
				実施基本組織の設置				
計	50	-	150	(届出)				